

專 門 科 目

社会福祉学科

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31051100:	社会福祉原論A	(佐伯 俊源)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

社会福祉の原理と歴史展開について理解が深まる
現代社会の福祉状況、福祉政策について理解が深まる

キーワード

社会福祉の原理 社会福祉の歴史 福祉政策 ニーズと資源

事前・事後学習

事前学習：特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自調べたことをノートにまとめてくること
事後学習：毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出すること

授業内容

本講義では、社会福祉の原理、政策などについて学ぶ。

近年、社会自体の多様化・複雑化にともない、社会福祉の枠組や領域もますます拡大しつつある。そのような現代社会との連関も十分に意識しながら、社会福祉の政策や制度に関する基本的な理論について理解を深めることを目標とする。

具体的には、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉の思想・哲学(以上春学期)、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策をめぐる諸論点、福祉政策の動向と課題、国際比較(以下秋学期)、などについて学びたい。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など):50%
講義内容に関する定期試験もしくはレポート:50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 序論 | 9. 社会福祉の思想・哲学① |
| 2. 社会福祉の原理① | 10. 社会福祉の思想・哲学② |
| 3. 社会福祉の原理② | 11. 社会福祉の思想・哲学③ |
| 4. 社会福祉の原理③ | 12. 社会福祉の思想・哲学④ |
| 5. 社会福祉の歴史① | 13. 社会福祉の思想・哲学⑤ |
| 6. 社会福祉の歴史② | 14. 社会福祉の思想・哲学⑥ |
| 7. 社会福祉の歴史③ | 15. 総括 |
| 8. 社会福祉の歴史④ | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業中に資料プリントを適宜配布する。

《参考文献》『社会福祉の原理と政策』（弘文堂 新・社会福祉士シリーズ4、2021）ほか
その他、具体的テーマに即して授業中で適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31051200:	社会福祉原論B	(佐伯 俊源)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

社会福祉の原理と歴史展開について理解が深まる
現代社会の福祉状況、福祉政策について理解が深まる

キーワード

社会福祉の原理 社会福祉の歴史 福祉政策 ニーズと資源

事前・事後学習

事前学習：特に必須ではないが、授業テーマを参照し、各自調べたことをノートにまとめてくること
事後学習：毎回の授業後に、重要な点や印象深い点などを文章コメントとして記述し、提出すること

授業内容

本講義では、社会福祉の原理、政策などについて学ぶ。
近年、社会自体の多様化・複雑化にともない、社会福祉の枠組や領域もますます拡大しつつある。そのような現代社会との連関も十分に意識しながら、社会福祉の政策や制度に関する基本的な理論について理解を深めることを目標とする。
具体的には、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉の思想・哲学(以上春学期)、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策をめぐる諸論点、福祉政策の動向と課題、国際比較(以上秋学期)、などについて学びたい。

成績評価方法

平常点(出席、受講態度など)：50%
講義内容に関する定期試験もしくはレポート：50%

課題に対するフィードバック

定期試験後に文面・口頭でフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 序論 | 9. 社会福祉における公と私① |
| 2. 福祉政策におけるニーズと資源① | 10. 社会福祉における公と私② |
| 3. 福祉政策におけるニーズと資源② | 11. 社会福祉における公と私③ |
| 4. 福祉政策におけるニーズと資源③ | 12. 福祉政策の動向と課題① |
| 5. 福祉政策におけるニーズと資源④ | 13. 福祉政策の動向と課題② |
| 6. 福祉政策をめぐる諸論点① | 14. 福祉政策の動向と課題③ |
| 7. 福祉政策をめぐる諸論点② | 15. 総括 |
| 8. 福祉政策をめぐる諸論点③ | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 授業中に資料プリントを適宜配布する。
《参考文献》 『社会福祉の原理と政策』（弘文堂 新・社会福祉士シリーズ4、2021）ほか
その他、具体的なテーマに即して授業中で適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31054100:	仏教福祉史A	(宮城 洋一郎)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

仏教と福祉の関わりを歴史的に捉え、その意義を理解することができる。

キーワード

仏教經典の福祉思想 日本古代仏教の福祉思想と実践

事前・事後学習

配付する『原典仏教福祉』をとおして事前学習をしておく。

毎回配付の「講義要約」で授業を振り返り、提示した参考文献等で事後学習を進める。

授業内容

本講義では、前半を仏教經典にみる福祉思想およびインド、中国の実践事例を取り上げ、その意義を明らかにしていく。後半では、日本古代仏教における福祉思想・実践について、その概要を検討していく。これらをとおして、仏教と福祉の深い関わりを学び、近代社会以降の社会福祉を歴史的に下支えてきたことを理解していく。

成績評価方法

毎回の出席状況と、講義に関わる簡易なレポートなどにより平常点とする(50%)。

定期試験は筆記試験により実施する(50%)。

課題に対するフィードバック

講義ごとに質問、意見を求め、適切に助言していく。

授業計画

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. はじめに：講義の全体像を提示 | 9. 行基の福祉実践 |
| 2. 原始仏教經典の福祉思想：平等思想と慈悲観 | 10. 光明皇后と施薬院・悲田院 |
| 3. 大乘仏教經典の福祉思想(1)：雑宝蔵經、諸徳福田經 | 11. 最澄の福祉思想 |
| 4. 大乘仏教經典の福祉思想(2)：維摩經、法華經 | 12. 空海の福祉思想・実践 |
| 5. 大乘仏教經典の福祉思想(3)：勝鬘經、文殊師利般涅槃經 | 13. 空也の福祉実践 |
| 6. 大乘仏教經典の福祉思想(4)：瑜伽論、梵網經 | 14. 源信と臨終行儀 |
| 7. アショーカ王と中国仏教の福祉実践 | 15. まとめ |
| 8. 聖徳太子の福祉思想 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『原典仏教福祉』（北辰堂）：最初の講義で配付

〈参考文献〉宮城洋一郎『日本古代仏教の福祉思想と実践』（岩田書院）

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b31054200:	仏教福祉史B				(宮城 洋一郎)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

仏教の福祉思想・実践を歴史的観点から理解することができる

キーワード

日本中世の仏教と福祉思想・実践 日本近世の仏教と福祉思想・実践

事前・事後学習

配付する『原典仏教福祉』をとおして事前学習をしておく。

毎回配付の「講義要約」で授業を振り返り、提示した参考文献等で事後学習を進める。

授業内容

日本中世・近世の仏教徒の福祉思想・実践についてその概要を述べ、社会福祉の視点から捉え直していく。講義にあたっては、人物を中心に思想形成、実践の成果、社会的影響力などについて、史料を交えながら検討していく。本講義を通じて、仏教が社会福祉理念にどのように影響しているかについて、理解を深めていく。

成績評価方法

毎回の出席状況と、講義に関わる簡易なレポートにより平常点とする(50%)

定期試験は筆記試験により実施する(50%)

課題に対するフィードバック

講義ごとに質問、意見を求め、適切に講評していく。

授業計画

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 春学期の振り返りと本講義の全体像を提示 | 9. 日蓮の福祉思想 |
| 2. 重源の福祉実践 | 10. 室町期の飢饉と願阿弥の福祉実践 |
| 3. 中世浄土教の福祉思想・実践(1):法然 | 11. 江戸時代の飢饉と鉄眼の救済活動 |
| 4. 中世浄土教の福祉思想・実践(2):親鸞 | 12. 浄土宗捨世派・無能の福祉実践 |
| 5. 中世浄土教の福祉思想・実践(3):一遍 | 13. 浄土宗捨世派の僧と近世往生伝の人々の福祉実践 |
| 6. 叡尊の福祉思想と実践 | 14. 白隠・慈雲の福祉思想・実践 |
| 7. 忍性の福祉実践 | 15. まとめ |
| 8. 明恵の仏教思想と福祉実践 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『原典仏教福祉』(北辰堂):最初の講義で配付

〈参考文献〉吉田久一・長谷川匡俊『日本仏教福祉思想史』法蔵館 2001年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31056100:	社会保障論A	(太谷 亜由美)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

社会保障の歴史・原理、制度の仕組みを理解できる。

キーワード

社会保障制度の体系、社会保障制度の歴史、社会保障制度の財政、諸外国の社会保障制度

事前・事後学習

授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること
授業後に小レポート(800文字程度)を作成し、ファイリングしておくこと

授業内容

現代国家において、特に第二次世界大戦後に大きく発達した社会保障制度は、時と共に、形を変えながら人々の生活の中で存在する。社会保障の役割とはなにか。個人では対処できない事柄に対し、国あるいは社会全体として立ち向かうことを可能としてきた仕組みである。人々の生活中に潜む様々な危険(リスク)に対して、それぞれの社会保障制度は働きを担っている。具体的には心身を病んだ場合には医療保障制度、高齢となり働けなくなるリスクを予防的に回避する公的年金制度を始め、さまざまな稼働所得の中断に対する公的扶助である生活保護、労働者を守る雇用保険、労災保険など多岐にわたる。国によって社会保障制度の仕組みは異なり、それを踏まえながら日本の社会保障諸制度や諸外国の社会保障制度を考察していきたい。

成績評価方法

平常点 50% 定期試験50%

課題に対するフィードバック

フィードバックとして小テスト・レポートに解答の解説・コメントを返す。

授業計画

- | | |
|---|----------------------|
| 1. オリエンテーション 学期を通して行われる
授業概要・評価方法の説明 | 9. 生活保護制度の現状 |
| 2. 社会保障とは
社会保障の歴史的発展 イギリスを例に
(1) | 10. 公的医療保険の仕組みと財政(1) |
| 3. 社会保障の歴史的発展 イギリスを例に
(2) | 11. 公的医療保険の仕組みと財源(2) |
| 4. 日本の社会保障の仕組み
・社会保険
・公的扶助
・公衆衛生 | 12. 介護保険仕組みと財源 |
| 5. イギリスの社会保障制度概説 | 13. 公的年金制度(1) |
| 6. アメリカの社会保障概説 | 14. 公的年金制度(2) |
| 7. 貧困の尺度
日本の貧困問題：世界との比較 | 15. 春学期のまとめ |
| 8. 社会扶助制度：生活保護制度 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編集)
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障
〈参考文献〉 必要に応じて紹介する。

その他

質問は授業後にどうぞ。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31056200:	社会保障論B	(太谷 亜由美)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

現代における社会保障の仕組みを知る。そして、いかに社会保障が我々の生活に関係のあるものかを考察する。

キーワード

医療保険制度、介護保険制度、雇用保険制度、労働者災害補償保険制度

事前・事後学習

授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること。授業後に小レポート(800字程度)を作成。

授業内容

社会保障が「社会」を冠する仕組みであることの意味とはなんだろうか。個人の責任ではどうしても解決することができない事柄が、いつの世にも存在してきた。歴史の中で社会保障は構築してこられたのだが、現代のような社会保障制度の展開は20世紀に入ってからである。当たり前にも思われる社会保障が、なぜ生成され、構築、発展して現在の姿となっているのかを学び、現在の日本における社会保障各制度の仕組みや問題点などを学び、より安心して暮らせる社会を目指す一助とする。

成績評価方法

平常点 50% 定期試験50%

課題に対するフィードバック

授業計画

- オリエンテーション
- 医療サービスを保障する仕組み：医療保険制度
国民健康保険の被保険者、保険者、保険料、
給付などについて学ぶ
- 被用者保険の被保険者、保険者、保険料、
給付などについて学ぶ
- なぜ、介護保険制度が創設されたのかを考
える
- 介護保険制度の仕組みを学ぶ
- 介護保険制度の現状を学び、課題を考える
- 労働保険(1)-雇用保険制度の概要と組み
を学ぶ
- 労働保険(2)-雇用保険制度の現状と課題を
考える
- 労働保険(3)-労働者災害補償保険制度の概
要と仕組みを学ぶ
- 労働保険(4)-労働者災害補償保険制度の現
状と課題を考える
- 社会保障と民間保険
- 社会保障が当面する課題(1)：少子高齢化、
各制度の財政赤字、就業構造の変化
- 社会保障が当面する課題(2)：少子高齢化、
各制度の財政赤字、就業構造の変化
- 直近の社会保障制度の改正や動向について
- 秋学期のまとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編集)
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障
《参考文献》 必要に応じて紹介する。

その他

質問は授業後にどうぞ。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31057100:	地域福祉論A	(近棟 健二)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・地域福祉の理念を理解できる
- ・地域福祉の歴史を理解できる
- ・地域福祉の現状と課題を理解できる
- ・地域福祉の担い手について理解できる

キーワード

地域福祉、社会福祉協議会、NPO

事前・事後学習

- 事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
- 事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

地域福祉が求められる背景を概説し、地域の現状と課題を理解した上で、地域福祉の基本的な考え方をワークショップを取り入れながら説明する。また、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について、事例を紹介しながら理解を深めてもらう。

成績評価方法

- 平常点：40%
- 学期末試験：60%

課題に対するフィードバック

授業最終時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 地域・コミュニティとは何か1
3. 地域・コミュニティとは何か2
4. 地域・コミュニティとは何か3
5. 社会の変化と地域福祉の課題
6. 地域における多様な福祉課題への対応
7. 地域福祉の理念
8. 地域福祉の歴史1
9. 地域福祉の歴史2
10. 地域福祉の担い手1
11. 地域福祉の担い手2
12. 地域福祉の担い手3
13. 地域福祉の担い手4
14. 福祉行財政システム
15. 振り返りとまとめ

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 必要に応じて配布する。
- 〈参考文献〉 必要に応じて紹介する。

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31057200:	地域福祉論B	(近棟 健二)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・地域福祉推進における専門職の役割を理解する
- ・社会資源の活用や調整、開発を理解する
- ・地域における福祉ニーズの把握方法を理解する

キーワード

地域福祉、コミュニティソーシャルワーク、地域福祉計画

事前・事後学習

- 事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
- 事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

地域福祉を推進する上で重要なネットワーキングの意義と方法、社会資源の活用・調整・開発、地域における福祉ニーズの把握方法について事例も取り上げながら説明する。また、地域における福祉サービスの評価方法についても理解を深める。

成績評価方法

- 平常点：40%
- 学期末試験：60%

課題に対するフィードバック

最終事業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニティソーシャルワークとは1
3. コミュニティソーシャルワークとは2
4. コミュニティソーシャルワークとは3
5. 住民の参加と方法1
6. 住民の参加と方法2
7. 地域福祉計画とその実際
8. 社会資源の活用・調整・開発
9. 地域福祉ニーズの把握方法
10. 地域における福祉サービスの評価方法
11. 専門他職種のチームアプローチ
12. 災害と地域福祉
13. コミュニティソーシャルワークの実際1
14. コミュニティソーシャルワークの実際2
15. 振り返りとまとめ

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 必要に応じて配布する。
- 〈参考文献〉 必要に応じて紹介する。

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31058200:	公的扶助論B	(明石 隆行)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

貧困の歴史、貧困観の変遷及び公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態と、貧困にかかる法制度(生活保護法等)と支援の仕組みについて理解する。

キーワード

貧困の概念、絶対貧困、相対的貧困、スティグマ、生存権保障、ナショナルミニマム、生活保護法の原理原則、生活困窮者自立支援法、低所得者対策、自立支援、福祉事務所、ケースワーカー、多職種連携、社会福祉主事、恤救規則、救護法、方面(民生)委員、審査請求

事前・事後学習

事前：指定したテキストで授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめる。

事後：随時、振り返りシートを作成する。

授業内容

貧困について理解し、生活保護制度を中心とした公的扶助制度について学ぶ。制度に関する知識の習得にとどまらず、生活困窮者に対する社会福祉士として適切な相談支援のあり方についても理解を深める。さらに、現代日本社会における公的扶助制度の意義と役割について考察する。

成績評価方法

平常点40%(授業内の小レポート等)、定期試験60%を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

最終講義に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. 貧困の概念
2. 貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境
3. 生活保護制度(1)
4. 生活保護制度(2)
5. 生活保護制度(3)
6. 自立支援と自立支援プログラムの意義と実際
7. 貧困に対する法制度
8. 低所得者対策(1)
9. 低所得者対策(2)
10. 福祉事務所の役割と実際(1)
11. 福祉事務所の役割と実際(2)
12. 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割
13. 公的扶助制度の歴史(1)
14. 公的扶助制度の歴史(2)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 岩永理恵、卯月由香、木下武徳『生活保護と貧困対策—その可能性と未来を拓く』有斐閣 2018年

《参考文献》 適宜紹介する。

その他

【授業担当者の実務歴】

大阪府のケースワーカーとして福祉事務所や保健所等において、生活保護業務や保健・福祉・医療の連携業務等に従事。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31059100:	社会福祉運営論A	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

日本の社会福祉理論の概要とその政策的な展開、社会福祉の対象、制度システム、福祉サービスの提供方法等の基本概念と理論的課題について理解できる

キーワード

福祉六法、福祉行財政、社会福祉基礎構造改革

事前・事後学習

- ・授業予定の内容を事前に読み、ノートにまとめておく
- ・学期に2回程度、授業時に小レポート(1000字程度)を作成する

授業内容

授業全体の概要は①地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制③地域福祉ガバナンスと多機関協働 等を中心テーマとして進める

成績評価方法

平常点(50%)と定期試験(50%)を基本に評価する

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 福祉と制度・社会福祉のとらえ方
2. 福祉と制度・日本の社会福祉の定義の変遷
3. 戦後福祉の法制度の展開・確立期・拡充期・見直し期
4. 戦後福祉の法制度の展開・改革期・現在の段階
5. 行政の骨格および国と地方自治体の関係(1)
6. 行政の骨格および国と地方自治体の関係(2)
7. 福祉行政の組織・国の役割と組織
8. 福祉行政の組織・地方自治体の役割と組織
9. 社会福祉関係法の体系と社会福祉基礎構造福祉(福祉サービスの組織・運営)
10. 社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用方式の分化
11. 財政と社会福祉
12. 福祉サービス提供組織の経営と実際
13. 福祉サービスの相談過程(福祉人材のマネージメント)
14. 地域の相談システム
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版
 〈参考文献〉 適宜紹介する。

その他

- ・以前、大阪府四條畷市において福祉事務所長(8年間)
- ・現在、大阪府下の地方自治体(大阪府、枚方市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、島本町)において、介護保険、障がい児(者)等の審議会委員及び各種社会福祉計画(介護保険、障がい者、子ども、地域福祉、街づくり等)の策定委員に従事

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31059200:	社会福祉運営論B	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

福祉行政における専門職の位置づけや福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解できる

キーワード

社会福祉基礎構造改革、地域共生社会、社会福祉計画

事前・事後学習

- ・授業予定の内容を事前に読み、ノートにまとめておく
- ・学期に2回程度、授業時に小レポート(1000字程度)を作成する

授業内容

授業全体の概要は①福祉行政における専門職の役割②福祉計画のプロセス③福祉計画の意義と目的④福祉計画の主体と方法⑤福祉計画の実際 等を中心テーマとして進める

成績評価方法

平常点(50%)と定期試験(50%)を基本に評価する

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 地域福祉の概念と理念
2. 地域福祉の歴史
3. 地域福祉の動向
4. 地域福祉の推進主体
5. 地域福祉の主体と福祉教育
6. 地域を基盤としたソーシャルワークの方法
7. 住民の主体形成に向けたアプローチ
8. 具体的な展開
9. 非常時や災害時における法制度
10. 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援
11. 福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開
12. 福祉計画の策定過程と方法
13. 福祉行政における国の役割
14. 福祉行政の組織及び専門職の役割
15. 福祉における財源

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版
 ＜参考文献＞ 適宜紹介する。

その他

- ・以前、大阪府四條畷市において福祉事務所長(8年間)
- ・現在、大阪府下の地方自治体(大阪府、枚方市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、島本町)において、介護保険、障がい児(者)等の審議会委員及び各種社会福祉計画(介護保険、障がい者、子ども、地域福祉、街づくり等)の策定委員に従事

コード	履修科目名				(担当教員)
b31060100:	社会福祉援助技術総論A				(岡本 芳也)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

ソーシャルワークの内容、その歴史と現在の課題を理解できる。

キーワード

ソーシャルワーク(社会福祉実践)とは何か、専門職と専門性、倫理、歴史、相談援助技術

事前・事後学習

事前：テキスト該当範囲を事前に熟読し、重要項目、疑問点、理解が難しい点についてノートにまとめておくこと。

事後：講義後にノートの内容を確認、必要な内容をテキストを参照しながら補足しておくこと。また、疑問点などがある場合、次回以降の講義で質問できるように準備すること。

授業内容

社会福祉士養成カリキュラムにおける「ソーシャルワークの基盤と専門職」に相当する科目となる。国の通知による教育内容を踏まえた上で、ソーシャルワークの意義や歴史、ソーシャルワークの価値、倫理などの側面を理解することを目的とした授業を行う。

成績評価方法

定期試験(筆記試験)：60%

平常点(授業内レポート含む)：40%

課題に対するフィードバック

最終講義の際に、全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. 現代社会における社会福祉制度とソーシャルワーク(社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置付け)
2. ソーシャルワークの定義(グローバル定義などの理解)
3. ソーシャルワークの定義(ソーシャルワーカーの理解)
4. ソーシャルワークの原理
5. ソーシャルワークの理念
6. ソーシャルワークの範囲と領域
7. ソーシャルワークの形成過程(近代化と社会福祉)
8. ソーシャルワークの形成過程(専門職の成立と発展)
9. ソーシャルワークの形成過程(様々な援助技術の発展)
10. ソーシャルワークの形成過程(ジェネラリストの視点)
11. 日本における社会福祉専門職の発展
12. 専門職倫理と倫理綱領
13. 倫理的ジレンマ(倫理的ジレンマの理解)
14. 倫理的ジレンマ(様々なジレンマの検討と理解)
15. ソーシャルワークにおける権利擁護

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞『ソーシャルワークの基盤と専門職』(株)みらい(最新版)

＜参考文献＞ 授業内で紹介、または関連資料を配布する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31060200:	社会福祉援助技術総論B	(岡本 芳也)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

ソーシャルワークにおける専門職の概念や範囲、社会福祉士に求められる役割、多職種関連系などを理解できる。

キーワード

ソーシャルワークとは何か、専門職と専門性、相談援助技術、多職種関連携

事前・事後学習

事前：テキスト該当範囲を事前に熟読し、重要項目、疑問点、理解が難しい点についてノートにまとめておくこと。

事後：講義後にノートの内容を確認、必要な内容をテキストを参照しながら補足しておくこと。また、疑問点などがある場合、次回以降の講義で質問できるように準備すること。

授業内容

社会福祉士養成カリキュラムにおける「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」に相当する科目となるが、国の通知による教育内容を踏まえた上で、ソーシャルワークの専門性の内容と重要性を理解することを目的とした授業を行う。

成績評価方法

定期試験(筆記試験)：60%

平常点(授業内レポート含む)：40%

課題に対するフィードバック

最終講義の際に、全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲
2. ソーシャルワークの固有性
3. ソーシャルワークの構成要素
4. ソーシャルワークの視点と対象認識
5. ソーシャルワークの視点と対象認識(ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク)
6. 社会福祉実践における利用者理解
7. ソーシャルワーク実践の新たな領域と課題
8. 現代社会におけるソーシャルワークの役割と意義
9. 社会福祉士制度の現状と課題(社会福祉士の職域)
10. 社会福祉士制度の現状と課題(福祉行政などにおける専門職)
11. 社会福祉士制度の現状と課題(各現場におけるソーシャルワーカー)
12. ソーシャルワークと自己覚知(自己覚知とは何か)
13. ソーシャルワークと自己覚知(自己覚知に関わる課題)
14. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
15. ソーシャルワークにおけるチームアプローチの理解

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『ソーシャルワークの基盤と専門職』(株)みらい(最新版)

〈参考文献〉 授業内で紹介、または関連資料を配布する。

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b31061100:	社会福祉援助技術基礎演習				(鴨野 直敏)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

ソーシャルワークのアプローチ方法を理解し必要時にどのアプローチ方法が有効か理解できる。

キーワード

ソーシャルワーク、バ이스ティック、個別面接、エンパワメントアプローチ

事前・事後学習

事前に前回演習時に提示された事例について読み、理解を深めてくる。
 バイスティックの7原則とは何かを調べてくる。

授業内容

- ①ソーシャルワーカーの基礎として、バイスティックの7原則と自己啓発、自己覚知について学ぶ。
- ②ソーシャルワーカーが使うことの多い対人援助技術を学ぶ。

成績評価方法

平常点：40%
 レポート提出：60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. 他者を知ってほしい自己について考える。
自己開示プレゼンテーション | 9. 行動変容アプローチについて考える |
| 2. 他者を知ってほしい相手について考える。
他者紹介プレゼンテーション | 10. 危機介入アプローチについて考える |
| 3. 開かれた質問と閉じられた質問について | 11. 課題中心アプローチについて考える |
| 4. パーバルコミュニケーションとノンバーバル
コミュニケーションについて | 12. システム理論アプローチについて考える |
| 5. 個別面接(ケースワーク)の技法について①
(バイスティックの7原則)考える | 13. エンパワメントアプローチについて考える① |
| 6. 個別面接(ケースワーク)の技法について②
(対面法、直角法、並行法)考える | 14. エンパワメントアプローチについて考える② |
| 7. 集団面接(グループワーク)の技法について
(コノブカの14原則)考える | 15. まとめ。他者のレポートについて討論する。 |
| 8. エコマップ、ジェノグラムの作成方法について考える | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 川村隆彦『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規 2011年
 《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31062100:	老人福祉論A(オンデマンド)	(申 恩瑠)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

- ・高齢者の定義と特性について説明できる
- ・高齢者とその家族の生活実態と取り巻く社会環境について論じることができる
- ・高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について説明できる

キーワード

高齢期、少子高齢社会、高齢者福祉の発展過程

事前・事後学習

テキストの指定範囲を熟読し専門用語や内容を理解しておくこと

授業内容

- ・高齢期の心身の変化を理解しそれに伴う生活課題を理解する。また、高齢者福祉制度の発展過程や理念を理解しこれらの基本的な仕組みについて学ぶ
 - ・授業外の学習・課題
- 授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅で振り返ること

成績評価方法

- ・課題 50%
- ・リアクションペーパー 30%
- ・レポート 20%

課題に対するフィードバック

提出課題についてコメントを記し個別に返却する。必要に応じて評価について話し合いを行う

授業計画

1. オリエンテーション
2. 高齢者の定義と特性 ① 高齢者の社会的理解
3. 高齢者の定義と特性 ② 高齢者の身体的・精神的理解
4. 高齢者と少子高齢社 ① 高齢化と高齢化率
5. 高齢者と少子高齢社会 ② 今後の高齢化の見通し
6. 高齢者の生活実態 ① 高齢者の経済および就業の状況
7. 高齢者の生活実態 ② 高齢者の健康及び要介護の状況
8. 高齢者を取り巻く社会環境 ① 高齢者世帯の特徴
9. 高齢者を取り巻く社会環境 ② 家族介護(者)の状況
10. 高齢者観の変遷
11. 高齢者福祉制度の発展過程 ① 社会福祉の発達前史と高齢者福祉
12. 高齢者福祉制度の発展過程 ② 第二次世界大戦後からの高齢者福祉
13. 高齢者福祉の理念
14. 介護保険法と介護保険制度の概要 ① 介護保険制度の制定の経緯
15. 介護保険法と介護保険制度の概要 ② 介護保険制度の全体像

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 最新 社会福祉士養成講座2『高齢者福祉』中央法規 2021
- ＜参考文献＞ 必要に応じて紹介する

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b31062200:	老人福祉論B(オンデマンド)				(申 恩瑠)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

- ・高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて説明できる
- ・高齢期における生活課題を理解し適切な支援のあり方について説明できる

キーワード

介護保険制度、高齢者と家族支援、専門職、連携

事前・事後学習

テキストの指定範囲を熟読し、専門用語や内容を理解しておくこと

授業内容

- ・介護保険やその他の高齢者支援に関する法制度の体系を理解する。なお、高齢者とその家族の生活課題を踏まえ必要とする専門職や関係機関の役割について理解する
 - ・授業外の学習・課題
- 授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅で振り返ること

成績評価方法

- ・課題 50%
- ・リアクションペーパー 30%
- ・レポート 20%

課題に対するフィードバック

提出課題についてコメントを記し個別に返却する。必要に応じて評価について話し合いを行う

授業計画

1. オリエンテーション
2. 高齢者福祉の発展過程
3. 介護保険制度の枠組みと保険財政
4. 介護保険制度の保険者と被保険者、保険料
5. 介護保険制度の要介護認定の仕組みとプロセス
6. 介護保険制度の保険給付
7. 介護保険制度の地域支援事業
8. 介護保険サービスの体系 ① 居宅サービス
9. 介護保険サービスの体系 ② 地域密着型サービス
10. 介護保険サービスの体系 ③ 施設サービス
11. 高齢者に対する関連諸制度 ① 高齢社会対策基本法、老人福祉法
12. 高齢者に対する関連諸制度 ② 高齢者医療確保法
13. 高齢者に対する関連諸制度 ② 高齢者虐待防止法、バリアフリー法、高齢者住まい法
14. 高齢者に対する関連諸制度 ② 高齢者住まい法、高齢者雇用安定法、育児・介護休業法
15. 高齢者と家族等を支援する関係機関と専門職の役割

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 最新 社会福祉士養成講座2『高齢者福祉』中央法規 2021
 ＜参考文献＞ 必要に応じて紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31063100:	障害者福祉論A	(脇田 寛史)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

障害者基本法の基本理念のもとに発布されている各種障害者制度等を活用し、障害児・者の自己決定を促す相談支援の在り方を理解する。

キーワード

障害者総合支援法 地域共生 ノーマライゼーション 障害児・者の権利

事前・事後学習

事前学習：テキスト指定範囲を事前に熟読しておくこと。

事後学習：授業で学んだ制度やサービスが障害者の現場でどのように活かされているかをまとめて、定期試験に備えること。

授業内容

・三障害(身体・知的・精神)の障害特性を踏まえ、障害児・者へのさまざまな法律・政策について、その理念や各種法制度とそのサービスまた課題等を取り上げ、その視点や捉え方、解決法等を考える。
*春学期は障害者の法体系、特に障害者総合支援法(基本枠組み)を中心に論じる。

成績評価方法

平常点：40% (内訳：リフレクションペーパー 15%、社会福祉士国家試験問題(過去問) 15%、課題レポート10%) 定期試験：60%

課題に対するフィードバック

授業後半にて、フィードバック(各回授業内容のポイントを振り返るリフレクションペーパーの記入)を行う。

授業計画

- | | |
|--|---|
| 1. オリエンテーションと障害者を取り巻く実態(障害とICF,その活用方法) | 9. 障害者総合支援法(サービスの2つの柱) |
| 2. 障害者福祉の歴史と法体系(障害福祉史) | 10. 障害者総合支援法(サービス支給のプロセス サービス開始まで) |
| 3. 障害者福祉の歴史と法体系(障害者基本法と四障害各法) | 11. 障害者総合支援法(サービス支給のプロセス サービス等利用計画) |
| 4. 障害者福祉の歴史と法体系(障害者虐待防止法,医療観察法 等) | 12. 障害者総合支援法(サービス支給のプロセス 利用者負担と軽減措置) |
| 5. 障害者福祉の歴史と法体系(障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法) | 13. 障害者総合支援法(サービス支給に対する苦情と不服への対応) |
| 6. 障害者福祉の歴史と法体系(障害者権利条約、障害者差別解消法) | 14. 障害者総合支援法(障害者自立支援制度と介護保険制度の関係) |
| 7. 障害者総合支援法(理念と考え方及び総合支援法改正ポイント) | 15. 障害者総合支援法(サービス等利用計画作成の基礎ポイント)*期末試験について |
| 8. 障害者総合支援法(サービスの対象者、提供者の役割) | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度第6版 中央法規
《参考文献》 必要に応じて随時、資料を配布する

その他

テキストは毎回活用します。必ず持参ください。授業中の私語は認めない。携帯・スマホ等の使用は禁止する。

コード	履修科目名			(担当教員)		
b31063200:	障害者福祉論B			(脇田 寛史)		
単位	2	期別	秋学期	学年	1年次～	

到達目標

障害者基本法の基本理念のもとに発布されている各種障害者政策等を活用し、障害児・者の自己決定を促す相談支援の在り方を理解する

キーワード

障害者総合支援法 多職種連携 権利擁護 地域共生

事前・事後学習

事前：テキスト指定範囲を事前に熟読しておくこと。事後：授業で学んだ制度やサービスが障害者の現場でどのように活かされているかをまとめて、定期試験に備えること。

授業内容

・三障害(身体・知的・精神)の障害特性を踏まえ、障害児・者へのさまざまな法律・政策について、その理念や各種法制度とそのサービスまた課題等を取り上げ、その視点や捉え方、解決法等を考える。
 *秋学期は障害者総合支援法(サービス内容)を中心の論じる。

成績評価方法

平常点：40% (内訳：リフレクションペーパー 15%、社会福祉士国家試験問題(過去問) 15%、課題レポート10%) 定期試験：60%

課題に対するフィードバック

授業後半にて、フィードバック(各回授業内容のポイントを振り返るリフレクションペーパーの記入)を行う。

授業計画

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1. 障害者総合支援法 自立支援給付(介護給付)
① | 9. 障害者の権利擁護(成年後見制度と市民後見制度) |
| 2. 障害者総合支援法 自立支援給付(介護給付)
② | 10. 障害者の権利擁護(任意後見制度と日常生活自立支援事業等) |
| 3. 障害者総合支援法 自立支援給付(訓練給付)
① | 11. 障害者へ権利擁護(障害者差別解消法) |
| 4. 障害者総合支援法 自立支援給付(訓練給付)
② | 12. 障害者総合支援法における組織及び団体の役割 |
| 5. 障害者総合支援法 自立支援給付(自立支援医療,補装具,その他) | 13. 障害者総合支援法における専門職の役割と実際 |
| 6. 障害者総合支援法 自立支援給付(地域生活支援事業等) | 14. 多職種連携とネットワーク(その意義と方法) |
| 7. 障害者総合支援法 障害児対象支援(通所支援) | 15. 障害者総合支援法のまとめ(サービス等利用計画作成のポイント). 期末試験について |
| 8. 障害者総合支援法 障害児対象支援(入所・相談支援) | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度第6版 中央法規
 ＜参考文献＞ 必要に応じて随時、資料を配布する。

その他

テキストは毎回活用します。必ず持参ください。授業中の私語は認めない。携帯・スマホ等の使用は禁止する。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31064100:	児童福祉論A～子ども家庭への福祉的支援	(福井 未来)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

子ども家庭福祉の歴史的背景と基本的な考え方が理解できる
 児童の権利について理解し、説明できる
 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要が理解できる

キーワード

子どもの権利条約、少子化、児童虐待

事前・事後学習

事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
 事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

少子化や児童虐待、貧困、引きこもりなど子どもを取り巻く状況は厳しさを増している。本講ではこれらの状況をどうすれば改善できるのかを考えていくために次のことを学んでいく。
 子ども家庭福祉の歴史的背景と基本的な考え方を学び、子どもの権利に関する現状と課題を理解する。
 あわせて、児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉需要について理解する。
 理解を深めるために事例や時事問題を取り上げる。
 授業の理解を深めるため毎回、一時間程度掛けて指定された課題に授業外で取り組むこと。

成績評価方法

平常点：40%
 学期末試験：60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. オリエンテーション | 9. 少子化問題① |
| 2. 子どもとは何か | 10. 少子化問題② |
| 3. 子ども家庭福祉の基本的な考え方 | 11. 児童虐待① |
| 4. 子ども家庭福祉の歴史① | 12. 児童虐待② |
| 5. 子ども家庭福祉の歴史② | 13. 子どもの貧困① |
| 6. 子どもの権利保障① | 14. 子どもの貧困② |
| 7. 子どもの権利保障② | 15. まとめ |
| 8. 子どもの権利保障③ | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉
 〈参考文献〉 適宜紹介する。

その他

要保護児童対策地域協議会の調整担当機関にて家庭児童相談員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31064200:	児童福祉論B～子ども家庭への福祉的支援	(福井 未来)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～

到達目標

子ども家庭福祉制度について理解できる
現代の子ども家庭を支援するための課題と方法が理解できる

キーワード

児童相談所、児童養護施設、里親

事前・事後学習

事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること

事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

少子化や児童虐待、貧困、引きこもりなど子どもを取り巻く状況は厳しさを増している。本講ではこれらの状況をどうすれば改善できるのかを考えていくために次のことを学んでいく。

子ども家庭福祉制度の概要について学び、現代の子ども家庭を支援するための課題と方法について理解する。

理解を深めるために事例や時事問題を取り上げる。

授業の理解を深めるため毎回、一時間程度掛けて指定された課題に授業外で取り組むこと。

成績評価方法

平常点：40%

学期末試験：60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. オリエンテーション | 9. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービス② |
| 2. 子ども家庭福祉行政の仕組み① | 10. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービス③ |
| 3. 子ども家庭福祉行政の仕組み② | 11. 子ども家庭福祉に関連する地域福祉活動① |
| 4. 子ども家庭福祉行政の仕組み③ | 12. 子ども家庭福祉に関連する地域福祉活動② |
| 5. 子ども家庭福祉サービスの施設① | 13. 子ども家庭福祉サービスを支える人① |
| 6. 子ども家庭福祉サービスの施設② | 14. 子ども家庭福祉サービスを支える人② |
| 7. 子ども家庭福祉サービスの施設③ | 15. まとめ |
| 8. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービス① | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉

〈参考文献〉 適宜紹介する。

その他

要保護児童対策地域協議会の調整担当機関にて家庭児童相談員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31065100:	医学一般A(総論)	(川本 昌子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

専門職能である社会福祉士に必要な医学に関する基礎知識として対象及び健康の概念を中心に理解を深め生活支援に資することができる

キーワード

対象、健康、生活機能

事前・事後学習

テキスト、配布資料及び自作ノート活用の習慣化

授業内容

- 1.対象である人間の成長、発達、衰退など各期の特徴及び身体構造・機能について理解する
- 2.人間の生活機能及び健康のとらえ方について理解する

成績評価方法

- 1)平常点：40%
- 2)レポート：60%

課題に対するフィードバック

- 1)講義要点の確認
- 2)レポートの概評

授業計画

1. 導入、ライフステージにおける心身の変化と健康問題(胎生期～青年・中年期)
2. ライフステージにおける心身の変化と健康問題(胎生期～青年・中年期)
3. 高齢期の生活(加齢現象、加齢に伴う身体面・精神面・社会面の変化)
4. 高齢期の生活(加齢現象、加齢に伴う身体面・精神面・社会面の変化)
5. 身体構造と心身機能(人体部位及び器官の名称)
6. 身体構造と心身機能(各器官の構造と機能)
7. 身体構造と心身機能(各器官の構造と機能)
8. 身体構造と心身機能(各器官の構造と機能)
9. 健康及び疾病の捉え方(健康の概念、健康づくり)
10. 健康及び疾病の捉え方(健康の概念、健康づくり)
11. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程(心身の構造機能と疾病・障害の関係)
12. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程(心身の構造機能と疾病・障害の関係)
13. 公衆衛生(感染症対策、衛生環境、保健、リハビリテーション)
14. 公衆衛生(感染症対策、衛生環境、保健、リハビリテーション)
15. 総括

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新社会福祉養成講座 精神保健福祉養成講座1 医学概論』中央法規
適宜DVD・必要時プリント配布。

《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31066100:	医学一般	(川本 昌子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～

到達目標

専門職能である社会福祉士に必要な医学に関する基礎知識として対象及び健康の概念を中心に理解を深め生活支援に資することができる

キーワード

対象、健康、生活機能

事前・事後学習

テキスト、配布資料及び自作ノート活用の習慣化

授業内容

1. 対象である人間の成長、発達、衰退など各期の特徴及び身体構造・機能について理解する
2. 人間の生活機能及び健康のとらえ方について理解する

成績評価方法

- 1) 平常点：60%
- 2) レポート：40%

課題に対するフィードバック

- 1) 講義要点の確認
- 2) レポートの概評

授業計画

1. 導入、ライフステージにおける心身の変化と健康問題(胎生期～青年・中年期)
2. ライフステージにおける心身の変化と健康問題(胎生期～青年・中年期)
3. 高齢期の生活(加齢現象、加齢に伴う身体面・精神面・社会面の変化)
4. 高齢期の生活(加齢現象、加齢に伴う身体面・精神面・社会面の変化)
5. 身体構造と心身機能(人体部位及び器官の名称)
6. 身体構造と心身機能(各器官の構造と機能)
7. 身体構造と心身機能(各器官の構造と機能)
8. 身体構造と心身機能(各器官の構造と機能)
9. 健康及び疾病の捉え方(健康の概念、健康づくり)
10. 健康及び疾病の捉え方(健康の概念、健康づくり)
11. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程(心身の構造機能と疾病・障害の関係)
12. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程(心身の構造機能と疾病・障害の関係)
13. 公衆衛生(感染症対策、衛生環境、保健、リハビリテーション)
14. 公衆衛生(感染症対策、衛生環境、保健、リハビリテーション)
15. 総括

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新社会福祉養成講座 精神保健福祉養成講座1 医学概論』中央法規
適宜DVD・必要時プリント配布。

《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31067100:	公的扶助論	(明石 隆行)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

貧困の歴史、貧困観の変遷及び公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態と、貧困にかかる法制度(生活保護法等)と支援の仕組みについて理解する。

キーワード

貧困の概念、絶対的貧困、相対的貧困、スティグマ、生存権保障、ナショナルミニマム、生活保護法の原理・原則、低所得者対策、生活困窮者自立支援法、自立支援、福祉事務所、社会福祉主事、ケースワーカー、多職種連携、恤救規則、救護法、方面(民生)委員、審査請求

事前・事後学習

事前：指定したテキストで授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめる。

事後：随時、振り返りシートを作成する。

授業内容

貧困について理解し、生活保護制度を中心とした公的扶助制度について学ぶ。制度に関する知識の習得にとまらず、生活困窮者に対する社会福祉士としての適切な相談支援のあり方についても理解を深める。さらに現代日本社会における公的扶助制度の意義と役割について考察する。

成績評価方法

平常点40%(授業内の小レポート等)、定期試験60%を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

最終講義に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. 貧困の概念
2. 貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境
3. 生活保護制度(1)
4. 生活保護制度(2)
5. 生活保護制度(3)
6. 自立支援と自立支援プログラムの意義と実際
7. 貧困に対する法制度
8. 低所得者対策(1)
9. 低所得者対策(2)
10. 福祉事務所の役割と実際(1)
11. 福祉事務所の役割と実際(2)
12. 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割
13. 公的扶助制度の歴史(1)
14. 公的扶助制度の歴史(2)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 岩永理恵、卯月由香、木下武徳『生活保護と貧困対策—その可能性と未来を拓く』有斐閣 2018年

〈参考文献〉 適宜紹介する。

その他

【授業担当者の実務歴】大阪府のケースワーカーとして福祉事務所や保健所等において、生活保護業務や保健・福祉・医療の連携業務等に従事。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b31068100:	社会福祉運営論	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

日本の社会福祉理論の概要とその政策的な展開、社会福祉の対象、制度システム、福祉サービスの提供方法等の基本概念と理論的課題について理解できる

キーワード

福祉六法、福祉行財政、社会福祉基礎構造改革

事前・事後学習

- ・授業予定の内容を事前に読み、ノートにまとめておく
- ・学期に2回程度、授業後に小レポート(1000字程度)を作成する

授業内容

授業全体の概要は①地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制③地域福祉ガバナンスと多機関協働 等を中心テーマとして進める

成績評価方法

平常点(50%)と定期試験(50%)を基本に評価する

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 福祉と制度・社会福祉のとらえ方
2. 福祉と制度・日本の社会福祉の定義の変遷
3. 戦後福祉の法制度の展開・確立期・拡充期・見直し期
4. 戦後福祉の法制度の展開・改革期・現在の段階
5. 行政の骨格および国と地方自治体の関係(1)
6. 行政の骨格および国と地方自治体の関係(2)
7. 福祉行政の組織・国の役割と組織
8. 福祉行政の組織・地方自治体の役割と組織
9. 社会福祉関係法の体系と社会福祉基礎構造(福祉サービスの組織と運営)
10. 社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用方式の分化
11. 財政と社会福祉
12. 福祉サービス提供組織の経営と実際
13. 福祉サービスの相談過程(福祉人材のマネージメント)
14. 地域の相談システム
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版
 〈参考文献〉 適宜紹介する。

その他

- ・以前、大阪府四條畷市において福祉事務所長(8年間)
- ・現在、大阪府下の地方自治体(大阪府、枚方市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、島本町)において、介護保険、障がい児(者)等の審議会委員及び各種社会福祉計画(介護保険、障がい者、子ども、地域福祉、街づくり等)の策定委員に従事

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32051100:	社会福祉援助技術各論1A	(溪村 真司)			
単位	2	期別	春学期	学年	2年次～

到達目標

ソーシャルワークの一手法としての「ケアマネジメント」を理解し、基本的な考え方を身につけ、実践のイメージ構築を図ります。1Aは1Bの[応用編]に対して[基礎編]に当たります。

キーワード

事前・事後学習

授業内容

ケアマネジメントの手法に触れながら必要なスキルを理解し、「クライアント自身」と「生活の営み」との間に起こる不具合の捉え方、課題解決に向けたアプローチ方法を学習します。

成績評価方法

出席:20%(ただし居眠りは認めません。眠さが勝るなら退出!)
 態度:60%(主体性と積極性を重視します! 発言が少なく、聞いているだけでは評価は伸びません)
 成績:20%(早い段階で「試験内容」を開示します。不明な点は事前に訊ねるなどの努力も、評価の範囲内です。試験は、自分の言葉で書いているかどうかを重んじます)

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|--|--|
| 1. ウォーミングアップ
試験内容の発表
授業参加の留意点説明 | 9. 課題解決型から目標志向型へ(ケアプラン)
「良い側面」から入る 援助テクニックの理解 |
| 2. 人と環境との交互作用について | 10. チームアプローチ(サービス担当者会議・サービス調整会議) ケア共有」の重要性 |
| 3. ソーシャルワークの過程とアプローチ | 11. 援助の微調整と記録(モニタリング)の重要性 |
| 4. 自立支援 -意欲向上への援助手法
国際生活機能分類(ICF)の視点に立った援助方法 | 12. 総括(エバリュエーション)の意義 |
| 5. ケアマネジメント過程の全体像
用語の説明
各過程の「働き」の解説 | 13. 集団活用とコミュニティワーク |
| 6. 出会い(エントリーとスクリーニング)
「援助」関係構築の仕方
「主訴」の聞き取り方 | 14. スーパービジョンとコンサルテーション |
| 7. 主訴の背景を探る(アセスメント)
「因子間の不具合」の理解と捉え方 | 15. クールダウン
「専門職としての自分」と心構えについて、大いに語る |
| 8. 課題整理(ニーズ抽出)
主訴と背景の関連性
意欲と活用できる力の評価 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞

＜参考文献＞『はじめてのケアマネジメント』はじめてのケアマネジメント作成委員会 中央法規 2011

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32051200:	社会福祉援助技術各論1B	(溪村 真司)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

ソーシャルワークの一手法であるケアマネジメントの方法について学習し、グループメンバーと力を合わせてケアマネジメントの「冊子」を完成させます 1Bは 1A[基礎編]に対し[応用編]に当たります

キーワード

事前・事後学習

授業内容

グループをつくり、課題を有する事例を、ケアマネジメントスキルを用いて解決に導く方法を検討し、[冊子(アクションカード)]にまとめる

成績評価方法

出席:20%(ただし居眠りは認めません。眠さが勝るなら退出!)

態度:60%(主体性と積極性を重視します! 発言が少なく、聞いているだけでは評価は伸びません)

成績:20%(早い段階で「試験内容」を開示します。不明な点は事前に訊ねるなどの努力も、評価の範囲内です。試験は、自分の言葉で書いているかどうかを重んじます)

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|---|--|
| 1. ウォーミングアップ
授業の全体像の理解
グループ編成 | 9. 正確な記録の重要性
「冊子」の文字起こし(2) |
| 2. ケアマネジメント過程の確認 | 10. 「冊子」の評価と課題抽出 |
| 3. 人と社会・環境間にかかる「不具合」の理解を深める
事例の選定(1) | 11. 「不具合」の確定「明日の一手」の絞り出し |
| 4. 「不具合」に対する様々なアプローチについて考える
事例の選定(2) | 12. 環境の中の「個」と個の中の「環境」の相互作用 |
| 5. ソーシャルワークの過程と事例の突合
事例のアウトライン整理 | 13. クライエントの「変わりいく自分」と環境適合
コミュニティワーク |
| 6. ソーシャルワーク 実践モデルの考察
課題解決の流れを確認(架空事例)(1) | 14. 読者への効果的な作用について
スーパービジョンとコンサルテーション |
| 7. ソーシャルワーク 実践のポイント
課題解決の流れを確認(架空事例)(2) | 15. クールダウン(総括) |
| 8. 正確な記録の重要性
「冊子」の文字起こし(1) | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞

＜参考文献＞『はじめてのケアマネジメント』はじめてのケアマネジメント作成委員会 中央法規 2011

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32052100:	社会福祉援助技術各論2A	(明石 隆行)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

社会福祉士として多様化・複雑化する福祉課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。

キーワード

ソーシャルワーク、プレーンストーミング、KJ法、面接技術、アサーション、価値観、ライフヒストリー、包括的支援、カンファレンス、CSW、アウトリーチ、個人情報

事前・事後学習

事前：指定した参考文献で授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめる。

事後：随時、振り返りシートを作成する。

授業内容

社会福祉士の業務の中核となる相談援助活動について学ぶ。個別援助技術と集団援助技術を基盤としつつ、ソーシャルワークの援助関係の形成から総合的かつ包括的な支援の実際にいたるまでを学習する。参加型の方式を採用することにより、体験的な学習をめざす。

成績評価方法

グループ討議など授業への取り組み姿勢や授業内の小レポートなどの平常点(40%)と定期試験(60%)を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

随時、振り返りの小レポートを作成する。

授業計画

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1. オリエンテーション | 9. ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援(1) |
| 2. ソーシャルワークに関連する方法(1) | 10. ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援(2) |
| 3. ソーシャルワークに関連する方法(2) | 11. 事例分析(1) |
| 4. ソーシャルワークに関連する方法(3) | 12. 事例分析(2) |
| 5. 相談援助のための面接技術(1) | 13. 事例分析(3) |
| 6. ソ相談援助のための面接技術(2) | 14. 相談援助と個人情報保護の意義と留意点 |
| 7. ソーシャルワークにおける援助関係の形成(1) | 15. まとめ |
| 8. ソーシャルワークにおける援助関係の形成(2) | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 特に指定しない。必要に応じて資料を配布

《参考文献》 川村隆彦『支援者が成長するための50の原則』中央法規 2011年

筒井のリ子「ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティソーシャルワーク」ミネルヴァ書房 2003年

中川千恵美、峯本佳世子、大野まどか「事例中心で学ぶ相談援助演習」みらい2010年

その他

【授業担当者の実務歴】

大阪府のケースワーカーとして福祉事務所や児童相談所等において生活保護、身体障害者福祉、老人福祉、児童福祉等の相談援助業務等に従事。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32052200:	社会福祉援助技術各論2B	(明石 隆行)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

社会福祉士として多様化・複雑化する福祉課題に対応するため、より実践的かつ効果的按ソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。

キーワード

ストレンクス、エンパワメント、ライフヒストリー、地域の福祉課題、コミュニティーソーシャルワーク、アウトリーチ、ワークショップ、多職種連携、ネットワークキング、社会資源

事前・事後学習

事前：指定したテキスト参考文献で授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめる。

事後：随時、振り返りシートを作成する。

授業内容

社会福祉士の業務の中核となる相談援助活動について学ぶ。個別援助技術と集団援助技術といった直接援助技術を基盤として、個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性等を見出すための、事例分析の意義や方法について学ぶとともに、地域における社会資源の活用・開発等を通じて地域における福祉課題を解決する援助技術について学ぶ。参加型の方式を取り入れることにより、体験的な学習をめざす。

成績評価方法

グループ討議など授業への取り組み姿勢や授業内の小テストなどの平常点(40%)と定期試験(60%)を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

随時、振り返りの小レポートを作成する。

授業計画

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. オリエンテーション | 9. ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発(2) |
| 2. スtrenクス(1) | 10. ワークショップ |
| 3. スtrenクス(2) | 11. 地域における福祉課題の解決(1) |
| 4. エンパワメント | 12. 地域における福祉課題の解決(2) |
| 5. ライフヒストリー (1) | 13. 地域における福祉課題の解決(3) |
| 6. ライフヒストリー (2) | 14. 地域における福祉課題の解決(4) |
| 7. ライフヒストリー (3) | 15. まとめ |
| 8. ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発(1) | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特に指定しない。必要に応じて資料を配布。

〈参考文献〉 川村隆彦『支援者が成長するための50の原則』中央法規 2011年
 筒井のり子『ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティーソーシャルワーク』ミネルヴァ書房2003年
 中川千恵美、峯本佳世子、大野まどか『事例中心で学ぶ相談援助演習』みらい2010年

その他

【授業担当の実務歴】大阪府のケースワーカーとして福祉事務所や児童相談所等において生活保護、身体障害者福祉、老人福祉、児童福祉等のケースワーカーとして相談援助業務等に従事。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32053100:	社会福祉援助技術演習IA	(近棟 健二)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

- ・面接技法を理解し、体得できる
- ・記録技法を理解し、体得できる
- ・観察技法を理解し、体得できる

キーワード

ソーシャルワーク、面接技法、個別支援計画

事前・事後学習

事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること

事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

ソーシャルワークには、理論に裏付けされた多様な専門的な技術が求められる。また、専門職として求められる価値を理解し、それに基づく姿勢で援助を展開することが必要である。本講義では、演習を通じてソーシャルワーカーに求められる傾聴や共感の姿勢、エンパワメントの視点に基づく面接技術を身につける。また、面接過程を記録して振り返ることにより、記録方法の習得と自己覚知を行う。さらに観察技術については、ロールプレイ等を通じて習得する。

授業の理解を深めるため毎回、一時間程度掛けて指定された課題に授業外で取り組むこと。

成績評価方法

平常点：60%

提出物の提出状況および内容：20%

期末試験：20%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. オリエンテーション/自己覚知 | 9. 観察技法①/観察の意義と方法 |
| 2. 面接技法①/傾聴と共感 | 10. 観察技法②/観察の視点と記録 |
| 3. 面接技法②/支持、焦点を当ててついでいく・効果的な質問 | 11. 実践①/ロールプレイの体験 |
| 4. 面接技法③/感情の反映・内容の反映 | 12. 実践②/ケースの作成 |
| 5. 面接技法④/面接における物理的環境・電話と手紙の活用 | 13. 実践③/作成したケースでロールプレイを行う |
| 6. 記録技法①/記録の意義と方法 | 14. 実践④/実施したロールプレイを振り返る |
| 7. 記録技法②/記録による援助の振り返りと自己覚知 | 15. 総括 |
| 8. 記録技法③/記録とリスクマネジメント | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞

＜参考文献＞ 必要に応じて適宜紹介する。

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名			(担当教員)		
b32053200:	社会福祉援助技術演習IB			(近棟 健二)		
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～	

到達目標

- ・相談援助過程を理解し、説明できる
- ・相談援助過程に必要な技法を理解し、体得できる

キーワード

ソーシャルワーク、面接技法、個別支援計画

事前・事後学習

- 事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
- 事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

ソーシャルワークには、理論に裏付けされた多様な専門的な技術が求められる。また、専門職として求められる価値を理解し、それに基づく姿勢で援助を展開することが必要である。本講義では、相談援助の過程とそこで必要な知識や技術について、ビデオ等による事例やロールプレイを通して実践的に学ぶ。なお、用いる事例は、児童虐待、ホームレス等の問題であり、集団に対する相談援助についても触れる。

授業の理解を深めるため毎回、一時間程度掛けて指定された課題に授業外で取り組むこと。

成績評価方法

平常点：60% 提出物の提出状況および内容：20% 期末試験：20%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1. オリエンテーション | 9. 相談援助過程に必要な技法①/アウトリーチ |
| 2. 相談援助過程の理解①/アセスメント① | 10. 相談援助過程に必要な技法②/チームアプローチ |
| 3. 相談援助過程の理解②/アセスメント② | 11. 相談援助過程に必要な技法③/ネットワーキング |
| 4. 相談援助過程の理解③/プランニング① | 12. 相談援助過程に必要な技法④/社会資源の活用・調整・開発 |
| 5. 相談援助過程の理解④/プランニング② | 13. 相談援助過程に必要な技法⑤/専門職によるチームワークの理解 |
| 6. 相談援助過程の理解⑤/支援の実施 | 14. 相談援助過程に必要な技法⑥/組織でのリーダーシップの理解 |
| 7. 相談援助過程の理解⑥/モニタリング・効果測定 | 15. 総括 |
| 8. 相談援助過程の理解⑦/終結とアフターケア | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞

＜参考文献＞ 必要に応じて適宜紹介する。

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32053300:	社会福祉援助技術演習ⅡA	(福井 未来)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

- ・地域における援助過程を理解し、説明できる
- ・地域における相談援助過程に必要な技法を理解し、体得できる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

ソーシャルワークには、理論に裏付けされた多様な専門的な技術が求められる。また、専門職として求められる価値を理解し、それに基づく姿勢で援助を展開することが必要である。本講義では、地域福祉を推進する援助の過程および重要な技法について、演習を通して習得する。

具体的には、地域における相談援助機関を想定した事例を取り上げコミュニティソーシャルワークの展開過程および必要な技術について、演習を通じて学習する。

授業外の学修・課題

授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅で振り返ること。

成績評価方法

- ・平常点 : 60%
- ・課題提出状況および内容 : 40%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1. オリエンテーション | 9. 援助過程に必要な技法①/ネットワーキング |
| 2. 援助過程の理解①/地域における情報収集すべき内容・情報収集の方法 | 10. 援助過程に必要な技法②/市民をエンパワーする視点と技法 |
| 3. 援助過程の理解②/住民についての情報収集と地域住民のニーズ把握の方法 | 11. 援助過程に必要な技法③/地域福祉計画における住民参加促進の視点と技法 |
| 4. 援助過程の理解③/個別課題アセスメント | 12. 援助過程に必要な技法④/ボランティアコーディネート |
| 5. 援助過程の理解④/地域アセスメント | 13. 援助過程に必要な技法⑤/地域課題解決のためのプログラム案の作成 |
| 6. 援助過程の理解⑤/プランニング① | 14. 援助過程に必要な技法⑥/福祉教育のプログラミング作り: 学校と地域の協同 |
| 7. 援助過程の理解⑥/プランニング② | 15. 総括 |
| 8. 援助過程の理解⑦/実施と評価 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉

〈参考文献〉 必要に応じて適宜紹介する

その他

障がい者支援施設の相談支援専門員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32053400:	社会福祉援助技術演習ⅡB	(福井 未来)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

- ・ケースカンファレンスを体験し、理解できる
- ・スーパービジョンを体験し、理解できる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

ソーシャルワークには、理論に裏付けされた多様な専門的な技術が求められる。また、専門職として求められる価値を理解し、それに基づく姿勢で援助を展開することが必要である。本講義では、地域における地域援助機関を想定した事例を用いてケースカンファレンスおよびスーパービジョンを行う。そのなかで、ソーシャルワーカーとしての必要な知識や技術、価値を確認するとともに、自己の援助を振り返る。さらに、さまざまなケースの事例検討を行い、これまで習得してきた知識・技術の統合化を図る。

授業外の学修・課題

授業内で指定された課題のほか、授業で学んだ内容を毎回自宅でも振り返ること。

成績評価方法

- ・平常点：60%
- ・課題提出状況および内容：40%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. オリエンテーション
2. ケースカンファレンス①/事例研究のためのケースカンファレンス方法論
3. ケースカンファレンス②/地域における相談援助機関での困難事例の検討①
4. ケースカンファレンス③/地域における相談援助機関での困難事例の検討②
5. ケースカンファレンス④/地域における相談援助機関での困難事例の検討③
6. スーパービジョン①/スーパービジョンの理解
7. スーパービジョン②/グループスーパービジョンの実施①
8. スーパービジョン③/グループスーパービジョンの実施②
9. スーパービジョン④/グループスーパービジョンの実施③
10. グループダイナミクスの活用・グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)
11. グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)
12. プレゼンテーション技術・個人プレゼンテーション・グループプレゼンテーション
13. ソーシャルワーカーの専門性①
14. ソーシャルワーカーの専門性②
15. 総括

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞

＜参考文献＞ 必要に応じて適宜紹介する

その他

障がい者支援施設の相談支援専門員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32057100:	社会福祉調査論A	(西牟田 真希)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

社会調査(量的調査)のしくみを理解し、調査データの読み取りと分析・考察が出来る調査票を企画・立案して、調査計画書を作成させる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

この講義では、社会福祉で実施される社会調査に必要な問いの立て方や調べ方を学び、調査を行うための基本的な概念や方法を学ぶことを目的とする。社会福祉調査論Aでは、特に調査票(アンケート)を用いた調査法や統計分析などの量的調査の基礎を学ぶ。講義形式ではあるが、授業中に文献を集めたり、計算をしったりしながら授業を進めることもある。必要な知識と調査法を習得したのち、過去の社会調査を調べて比較し、各自で調査票を用いた調査を企画・立案してレポートを作成する。なお、秋学期に開講される社会福祉調査論Bとあわせて受講することが望ましい。

成績評価方法

平常点と授業課題(40%)、期末レポート(60%)により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 社会福祉調査の意義と目的 | 9. ソーシャルワークにおける評価 |
| 2. 量的調査の方法-独立変数と従属変数 | 10. データ収集分析について |
| 3. 質的調査の方法-仮説の設定と調査の必要性 | 11. 調査票の質問形式と回答形式—問いと選択肢を作ってみよう(2) |
| 4. テーマと仮説を決定して、調査デザインをしよう | 12. 調査データの集計・整理(1) |
| 5. 社会福祉調査のデザイン(倫理) | 13. 調査データの集計・整理(2) |
| 6. 社会福祉調査のデザイン(目的と対象) | 14. 調査結果の分析と考察 |
| 7. 調査票の質問形式と回答形式—問いと選択肢を作ってみよう(1) | 15. 社会福祉調査における倫理と個人情報保護 |
| 8. 社会福祉調査のデザイン(プロセス) | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特に指定しない。

〈参考文献〉 立石宏昭、『社会福祉調査のすすめ—実践のための方法論—(第2版)』ミネルヴァ書房、2010年
(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32057200:	社会福祉調査論B	(西牟田 真希)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

社会調査(質的調査)のしくみを理解し、調査データの読み取りと分析・考察が出来る調査計画書をもとに質的調査を実施し、報告書を完成させる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

この講義では、社会福祉で実施される社会調査に必要な問いの立て方や調べ方を学び、調査を行うための基本的な概念や方法を学ぶことを目的とする。社会福祉調査論Bでは、参与観察や聞き取り(インタビュー)調査などの質的調査の基礎を学ぶ。必要な知識と調査方法を習得したのち、各自で調査を企画・立案し、実際に調査計画にそって質的調査を実施し体験する。さらに調査後に、調査結果を整理して報告書を完成させる。なお、春学期に開講される社会福祉調査論Aをあわせて受講することが望ましい。

成績評価方法

平常点と授業課題(40%)、期末レポート(60%)により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1. 社会調査と質的調査 | 9. 調査記録の方法と注意点 |
| 2. 質的調査と調査アプローチ法(1) | 10. 調査の実施とフィールドノート作成 |
| 3. 質的調査と調査アプローチ法(2) | 11. 実施調査の発表・報告(1) |
| 4. テーマと仮説を決定して、調査デザインをしよう | 12. 実施調査の発表・報告(2) |
| 5. フィールドワーク | 13. 調査結果のデータ整理と分析 |
| 6. 参与観察 | 14. 調査の考察とまとめ |
| 7. 聞き取り調査 | 15. 期末レポート(フィールドノートと調査報告書)の作成について |
| 8. 調査の立案・計画をたてよう | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特に指定しない。

〈参考文献〉 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2016年。
都留民子編『「大量失業社会」の労働と家族生活——筑豊・大牟田150人のオーラル・ヒストリー』大月書店、2012年。
(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32058100:	保育原理(オンデマンド)	(藤井 裕子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

子ども理解を深め保育者の社会的役割について知識を習得する。

- (1) 保育の目的や方法、内容について理解する。
- (2) 保育の基本的知識と技術を習得する。
- (3) 保育における保護者支援ができるようになる。

キーワード

子ども理解、子どもの最善の利益、保育者の専門性

事前・事後学習

授業の最後に小レポートを作成し提出すること。

授業内容

保育の意義と社会的役割について学ぶ。保育に関する基本的知識を学び、人間形成にとって重要な時期にある乳幼児を育てる保育者の援助を理解する。

- (1) 保育における子ども理解
- (2) 保育や幼児教育の思想や歴史
- (3) 子どもの発達の特徴
- (4) 子どもを健やかに育てるための知識と方法

成績評価方法

平常点：30%

到達度確認チェック:20%

期末レポート:50%

課題に対するフィードバック

フィードバックとして小レポートを回収後、コメントを返す。

授業計画

- | | |
|--|--|
| 1. オリエンテーション
講義概要・講義の主旨と計画、成績評価、
授業中の諸注意について | 9. 保育者の役割 |
| 2. 子ども理解を深める | 10. 子どもに関する法制度 |
| 3. 現代社会における子どもの状況 | 11. 家庭とのかかわり
(1) 保護者との信頼関係、親子関係を支える |
| 4. 幼児教育と児童福祉の歴史 | 12. 家庭とのかかわり
(2) 子育て支援 |
| 5. 子どもの心身の発達を知る(1) 乳児期 | 13. 特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援 |
| 6. 子どもの心身の発達を知る(2) 幼児期 | 14. 地域社会におけるの保育所の意義 |
| 7. 子どもの心身の発達を知る(3) 学童期 | 15. 総復習 |
| 8. 保育の目標 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》なし。プリント資料を配布する。

《参考文献》 渡辺英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀編著「保育原理」ミネルヴァ書房
厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館

その他

コード	履修科目名				(担当教員)	
b32058200:	保育内容(オンデマンド)				(藤井 裕子)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～	

到達目標

子どもの心理や行動へ理解を深め適切な支援ができるようになる。

- (1) 子ども理解が深まる。
- (2) 子どもの発達を理解し適切な援助が行える。
- (3) 保育内容を学び、子どもの最善の利益を考えた保育が実践できる。

キーワード

子ども理解を深める、保育内容の理論と実践、健康と安全、保護者支援

事前・事後学習

授業の最後に小レポートを作成し、提出すること。

授業内容

乳幼児の発達を理解し、一人一人に応じた発達支援について学ぶ。

- (1) 乳幼児期の発達に応じた援助や環境の構成を学ぶ。
- (2) 保育内容の5領域のねらいや内容を理解する。
- (3) 子育て支援、保護者への養育上の助言や指導について学ぶ。

成績評価方法

平常点：30%

小レポート：20%

期末レポート：50%

課題に対するフィードバック

フィードバックとして小レポートを回収後、コメントを返す。

授業計画

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1. オリエンテーション
講義概要・講義の主旨と計画 | 9. 特別な支援を必要とする子ども理解と支援 |
| 2. 保育の目標と保育者の役割 | 10. 小学校との連携 |
| 3. 保育内容、子どもの健康と安全 | 11. 地域の専門機関との連携 |
| 4. 保育内容、子どもの人間関係 | 12. 多様化する保育、虐待予防の視点 |
| 5. 保育内容、子どもと環境 | 13. 保育におけるソーシャルワークの意義 |
| 6. 保育内容、子どもの言葉の発達 | 14. 保育の課題と指導計画 |
| 7. 保育内容、子どもの表現活動 | 15. 総復習 |
| 8. 乳児保育の内容 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉なし。プリント配布する。

〈参考文献〉 渡辺英則・大豆生田啓友 編著「保育内容総論」ミネルヴァ書房
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32060100:	発達心理学A	(岡崎 良仁)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・誕生から乳幼児期、児童期を中心に人がどのように発達していくかについて運動・知覚・言語・愛着・認知・社会性などを中心に理解する。
- ・これまでの自分自身の体験を発達心理学的な視点で捉えなおすことができる。

キーワード

身体・運動の発達、感覚・知覚の発達、言語の発達、愛着の発達、認知の発達、社会性の発達

事前・事後学習

授業で扱った内容に関して、感想や疑問点をコメントシートにまとめ、毎授業後に提出する。

授業内容

発達心理学では、かつて、子どもが大人になるまでの過程が発達であると考えられていたが、現在では、人間の“こころ”と“からだ”は、生まれてから死ぬまで一生涯を通じて発達し続けるものと捉えられるようになってきている。

本講義では、乳幼児期、児童期までを中心に運動・知覚・言語・愛着・認知・社会性などの発達について学び、人間理解を深めてもらいたい。また、発達上で生じる様々な障害について理解を深めてもらいたい。

成績評価方法

平常点：60%（コメントシートの提出）

定期レポート：40%

課題に対するフィードバック

今回の授業でコメントシートへのフィードバックを行う。

授業計画

1. 発達心理学とは？
2. 発達の区分
3. 胎児の発達
4. 胎生期に生じる問題
5. 脳の発達
6. 身体・運動の発達
7. 感覚・知覚の発達① 視覚・聴覚
8. 感覚・知覚の発達② 味覚・嗅覚・触覚
9. 言語の発達
10. 野生児の事例
11. 愛着の発達
12. 虐待
13. 認知の発達 ピアジェの認知発達理論
14. 社会性の発達
15. 発達障害

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

＜参考文献＞ 小野寺敦子『手にとるように発達心理学がわかる本』かんき出版 2009

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b32060200:	発達心理学B				(岡崎 良仁)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・青年期から老年期までを中心に人がどのように発達していくかについて理解する。
- ・発達各期に見られる問題について理解を深め、対応について考えることができる。
- ・これまでの自分自身の体験を発達心理学的な視点で捉えなおすことができる。

キーワード

ライフサイクル、発達理論、アイデンティティ

事前・事後学習

授業で扱った内容に関して、感想や疑問点をコメントシートにまとめ、毎授業後に提出する。

授業内容

成長のピークを迎える青年期以降は、どちらかといえば、成長という上昇的な側面よりも衰退や老化といった下降的な側面が目されやすい。しかし、生涯発達の視点では、“人は一生発達する”ことをモットーに、衰退や老化も含めた人間の変化を“発達”と捉えてきた。本講義では、生涯発達の視点から青年期以降の発達について理解を深めたい。

また、発達における諸理論、諸問題について紹介しながら、人間の発達について考えていきたい。

成績評価方法

平常点：60%（コメントシートの提出）

定期レポート：40%

課題に対するフィードバック

今回の授業でコメントシートへのフィードバックを行う。

授業計画

1. 道徳性の発達
2. 発達検査
3. ライフサイクル論
4. フロイトの発達理論
5. エリクソンの発達理論① 乳児期～児童期
6. エリクソンの発達理論② 青年期～成人後期
7. フロイト以降の発達に関する諸理論
8. 青年期の発達 ①身体の変化
9. 青年期の発達 ②心の変化
10. 青年期の発達 ③対人関係
11. 成人期の発達 ①結婚・子育て
12. 成人期の発達 ②仕事
13. 中年期の発達
14. 老年期の発達
15. 各発達期における諸問題

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

〈参考文献〉 小野寺敦子『手にとるように発達心理学がわかる本』かんき出版 2009

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32061100:	医療福祉論A	(新地 敦彰)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

医療ソーシャルワークの倫理・価値・知識・技術の基礎を理解できる。
 保健医療福祉に関する経済、経営の基礎的知識を理解することができる。
 地域共生社会における保健医療福祉の機関、専門職、ネットワークの果たす役割を理解する。

キーワード

保健、医療、福祉、ソーシャルワーク、医療、患者の権利、医療倫理、福祉倫理、在宅医療、多職種連携、医療経済、重層的支援、地域共生社会、ターミナルケア、難病、医療的ケア児

事前・事後学習

医療福祉の理論や制度を事例を通し様々な社会資源の活用方法や支援方法を学びます。

授業内容

本講では、福祉専門職が持つべき保健医療福祉領域の知識、理論を基礎から学びます。
 現在、医療は病院から在宅医療・地域医療にシフトし、その中で福祉専門職は前述の知識と共に診療報酬など医療の仕組みの理解も求められています。医療機関が機能ごと専門分化していく過程において、児童、障害、高齢など様々な領域との連携も増している。福祉専門職としてどのように関わるのかを学んでいきます。

成績評価方法

平常点：30%
 授業内レポート：20%
 定期試験：50%

課題に対するフィードバック

保健、医療、福祉の問題点を認識し、今後に活かせるような振り返りを行う。

授業計画

1. 医療福祉論とは
2. 医療ソーシャルワーカーの業務と役割
3. 保健医療福祉の制度概要
4. 医療費、医療経済の仕組み、医療保険の仕組み
5. 保健医療福祉における倫理
6. 医療福祉における介護保険制度の概要
7. 医療福祉における障害者制度
8. 医療福祉における難病制度
9. 医療福祉におけるその他関係法
10. 医療福祉における保健・医療・福祉関係法規
11. 医療福祉における専門職の役割と実際
12. 医療福祉における他職種連携の実際
13. 地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識
14. これからの保健・医療・福祉サービスの動向
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 医学書院 医療福祉総合ガイドブック2024年度版
 〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32061200:	医療福祉論B	(新地 敦彰)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

保健、医療、福祉で頻出の制度及び社会資源の情報を的確に把握し活用できるようにするとともに、クライアントに寄り添う医療ソーシャルワークを考える。

キーワード

医療福祉、医療ソーシャルワーク、保健、医療、在宅医療、医療福祉、連携、多職種連携、医療経営、医療相談、重層的支援、退院支援、事例、事例検討、ターミナルケア、難病、医療的ケア児

事前・事後学習

医療福祉の現在起こっている事象や事例やを通し、さまざまな支援の実際、公助、共助、自助、フォーマル、インフォーマルサポートの活用方法を学びます。

授業内容

現在、福祉の支援を行う際、保健、医療分野との連携がさらに強く求められています。福祉の現場では、医療福祉論の知識が必要になり、医師、看護師等とのチーム医療での支援さらに、様々な問題を抱えた困難ケースなど福祉専門職の求められるニーズが年々増加し広がりを見せています。講義では、医療福祉の考えを事例等を交え寄り添う支援の姿とは?を考えていきたい。

成績評価方法

平常点：30%
 授業内レポート：20%
 定期試験：50%

課題に対するフィードバック

保健、医療、福祉の問題点を把握し、今後活かせるような振り返りを行う。

授業計画

1. 医療福祉論を活用する
2. 医療福祉分野での実際、介護保険、障害者、難病制度
3. 医療福祉分野における在宅医療の基礎知識1
4. 医療福祉分野における在宅医療の基礎知識2
5. 医療福祉分野で知っておくべきターミナルケアの支援1
6. 医療福祉分野で知っておくべきターミナルケアの支援2
7. 医療福祉分野で知っておくべき小児分野への支援
8. 医療福祉分野で知っておくべき成人分野への支援
9. 医療福祉分野で知っておくべき難病への支援1
10. 医療福祉分野で知っておくべき難病への支援2
11. 事例カンファレンス1基礎編
12. 事例カンファレンス2一般編
13. 事例カンファレンス3応用編
14. まとめ1現在の保健医療福祉
15. まとめ2これからの保健医療福祉

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 医学書院 医療福祉総合ガイドブック 2024年度版
 ＜参考文献＞

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32065100:	精神保健福祉援助技術総論A	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

障害者福祉の理念と意義を踏まえ、他の障害者から遅れて福祉の世界に仲間入りした精神障害者の保健福祉サービスの実際と人権擁護について理解できる

キーワード

精神保健福祉士の専門性、相談援助、ソーシャルワークの価値・理念

事前・事後学習

- ・授業予定の内容を事前に読み、ノートにまとめておく
- ・学期に2回程度、授業時に小レポート(1000字程度)を作成する

授業内容

本授業では、①精神保健福祉士の専門性について理解 ②相談援助活動の定義と概念について理解 ③精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割についての理解 等を中心テーマとして進める

成績評価方法

平常点(50%)と定期試験(50%)を基本に評価する

課題に対するフィードバック

最終授業時に、全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 精神保健福祉の原理
2. 障害の捉え方
3. 障害者福祉の理念
4. 精神障害者福祉の歴史的展開
5. 制度における「精神障害者」の定義
6. 国際生活機能分類(ICF)と精神障害
7. 精神障害の「障害特性」
8. 精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流(1)
9. 精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流(2)
10. 諸外国における排除の歴史とその後の展開
11. 日本における排除の歴史と構造(1)
12. 日本における排除の歴史と構造(2)
13. 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み(1)
14. 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み(2)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞『精神保健福祉の原理』中央法規

＜参考文献＞ 適宜紹介する

その他

- ・以前、大阪府四條畷市において福祉事務所長(8年間)
- ・現在、大阪府下の地方自治体(大阪府、枚方市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、島本町)において、介護保険、障がい児(者)等の審議会委員及び各種社会福祉計画(介護保険、障がい者、子ども、地域福祉、街づくり等)の策定委員に従事

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32065200:	精神保健福祉援助技術総論B	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

国際的に立ち遅れている日本の精神障害者の社会復帰に係わる精神保健福祉士の専門職としての理念や意義、活動について、精神保健福祉法に基づき理解できる

キーワード

包括的援助、権利擁護、多職種連携

事前・事後学習

- ・授業予定の内容を事前に読み、ノートにまとめておく
- ・学期に2回程度、授業時に小レポート(1000字程度)を作成する

授業内容

本授業では、①ソーシャルワークの源流と形成過程について基本的理解を深める。②精神保健福祉分野における相談援助活動の現状と今後の課題について理解する。③総合的・包括的な援助の機能と概要について理解する。等を中心テーマとして進める

成績評価方法

平常点(50%)と定期試験(50%)を基本に評価する

課題に対するフィードバック

最終授業時に、全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 精神科医療による生活への影響
2. 精神障害者の家族が置かれている状況
3. 精神障害者の社会生活の実際(1)
4. 精神障害者の社会生活の実際(2)
5. メンタルヘルスをめぐる新たな課題
6. 精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程
7. 精神保健福祉士による実践の価値・原理
8. 精神保健福祉士による実践の視野や視点
9. 援助における関係性
10. 精神保健福祉士法の理解
11. 精神保健福祉士法の職業倫理
12. 精神保健福祉士の業務特性と業務指針
13. 精神保健福祉士の職場・職域
14. 精神保健福祉士の業務内容とその特性
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞『精神保健福祉の原理』中央法規出版
- ＜参考文献＞ 適宜紹介する。

その他

- ・以前、大阪府四條畷市において福祉事務所長(8年間)
- ・現在、大阪府下の地方自治体(大阪府、枚方市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、島本町)において、介護保険、障がい児(者)等の審議会委員及び各種社会福祉計画(介護保険、障がい者、子ども、地域福祉、街づくり等)の策定委員に従事

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32066100:	精神保健福祉援助技術各論A(オンデマンド)	(長谷川 章子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

ソーシャルワークに関する様々な技術について理解をした上で、ソーシャルワーク実践に必要なとされる具体的な知識を身につける。実際の事例を通してグループでの事例検討を通して、他者の意見の相違の理解や合意形成に至る「連携」の手法についても理解する。

キーワード

精神障害者、精神保健福祉法、家族支援

事前・事後学習

事前：授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。

事後：授業で取り扱った教科書内容や授業で使用した配付資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックスや関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。

授業内容

ソーシャルワークとは、社会福祉を体現する方法論である。本講義では「社会福祉援助技術各論1A・1B」を受け、ソーシャルワークの様々なアプローチや面接・記録の技術、集団や地域へのソーシャルワーク、組織運営、ソーシャルアクション、スーパーバイズなど具体的なソーシャルワークの技術について講義する。またソーシャルワーカーの実務経験をもとに、実際のソーシャルワーク実践現場での事例を参照しながら、様々な技術などが理解できる授業を行う。

成績評価方法

平常点：20% グループワーク：30% 定期試験：50%

ただし、総授業回数の3分の2以上の出席がなければ単位を認定しません。

課題に対するフィードバック

次回授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ソーシャルワークの構成要素：ソーシャルワークにおける原則、知、実践等(1)
3. ソーシャルワークの構成要素：ソーシャルワークにおける原則、知、実践等(2)
4. ソーシャルワークの展開過程：ケース発見からアフターケアまで
5. 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点：人と環境の相互作用を中心に(1)
6. 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点：人と環境の相互作用を中心に(2)
7. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開
8. 援助関係の形成技法：バ이스ティックの7原則を中心に
9. 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法：インテーク、アセスメントおよびアウトリーチ
10. 面接技術とその応用
11. グループワーク(集団援助技術)：グループワークの歴史、概念、意義そして方法
12. 支援の展開(ケアマネジメント)：ストレングスモデルに基づくケアマネジメント
13. 精神障害者家族の課題：そのニーズと支援
14. 家族理解の変遷：家族病因論からアルコール依存症の家族研究まで
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 ソーシャルワークの理論と方法[精神専門] / 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編/中央法規

〈参考文献〉

その他

新聞等に日頃から目を通し、精神保健福祉に関する関心を深める。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32066200:	精神保健福祉援助技術各論B(オンデマンド)	(長谷川 章子)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

精神障害者を取り巻く環境を統計的に把握し、精神障害者に対する効果的な実践を考える機会を得るまた、効果的な実践の実装のために、ソーシャルワーカーとして何ができるかについて考える

キーワード

ソーシャルアクション ソーシャルアドミニストレーション 連携

事前・事後学習

事前：授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。

事後：授業で取り扱った教科書内容や授業で使用した配付資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックスや関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。

授業内容

春期に続き、ソーシャルワークとは、社会福祉を体現する方法論である。本講義では「社会福祉援助技術各論1A・1B」を受け、ソーシャルワークの様々なアプローチや面接・記録の技術、集団や地域へのソーシャルワーク、組織運営、ソーシャルアクション、スーパーバイズなど具体的なソーシャルワークの技術について講義する。またソーシャルワーカーの実務経験をもとに、実際のソーシャルワーク実践現場での事例を参照しながら、様々な技術などが理解できる授業を行う。

成績評価方法

平常点：20% 小テスト：30% 定期試験：50% ただし、総授業回数の3分の2以上の出席がなければ単位を認定しません。

課題に対するフィードバック

次回授業時に全体向けにフィードバックを行

授業計画

1. コミュニティワーク：精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義
2. ソーシャルアクションへの展開：基本的視点
3. ソーシャルアクションへの展開：個別支援から地域における体制整備(事例検討)
4. ソーシャルアクションへの展開：地域移行・地域定着
5. チームアプローチ：連携とは
6. チームアプローチ：チームビルディング
7. チームアプローチ：チーム形態と特徴
8. チームアプローチ：連携における精神保健福祉士の役割
9. チームアプローチ：事例検討
10. ソーシャルアドミニストレーション：概念
11. ソーシャルアドミニストレーション：ソーシャルアドミニストレーションにおける展開方法
12. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：学校・教育分野
13. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：産業分野
14. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：司法分野
15. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：災害分野

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 6 最新精神保健福祉士養成講座 / ソーシャルワークの理論と方法[精神専門] / 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編/中央法規

〈参考文献〉

その他

新聞等に日頃から目を通し、精神保健福祉に関する関心を深める。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32067100:	精神保健福祉援助技術演習A	(鴨野 直敏)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	4年次

到達目標

なぜ、クライアントが「その」行動を取るのか、なぜ、クライアントが「その」言葉を発したのか、様々な想像をすることでクライアントの「今」の気持ちを理解することができる。

キーワード

クライアント、PSW、ソーシャルワークプロセス

事前・事後学習

授業の理解を深めるため、毎回、事前に提示された指定事例に一時間くらいかけて取り組むこと。

授業内容

事例に基づいて演習を行う。

注意深く文章を読み解くことで、クライアントの「今」を把握する。

討論形式。

成績評価方法

平常点：40%

レポート：60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. 症状の悪化により医療保護入院となった認知症の男性①
2. 症状の悪化により医療保護入院となった認知症の男性②
3. 突如現れた就職希望の男性①
4. 突如現れた就職希望の男性②
5. 執拗に即時の入所をせまる母親①
6. 執拗に即時の入所をせまる母親②
7. ストレスチェック後に受診を勧められた男性①
8. ストレスチェック後に受診を勧められた男性②
9. 作業の休憩時間を思い思いに過ごすメンバー①
10. 作業の休憩時間を思い思いに過ごすメンバー②
11. 転職と再飲酒を繰り返す軽度知的障害の女性①
12. 転職と再飲酒を繰り返す軽度知的障害の女性②
13. 生活支援を長年拒み続けてきた一人暮らしの男性①
14. 生活支援を長年拒み続けてきた一人暮らしの男性②
15. 激昂した無職の男性と泣き出した休職中の女性①

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 田村綾子『ソーシャルワークプロセスにおける思考過程』中央法規 2017

＜参考文献＞

その他

コード	履修科目名			(担当教員)	
b32067200:	精神保健福祉援助技術演習B			(鴨野 直敏)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	4年次

到達目標

なぜ、クライアントが「その」行動を取るのか、なぜ、クライアントが「その」言葉を発したのか、様々な想像をすることでクライアントの「今」の気持ちを理解することができる。

キーワード

クライアント、PSW、ソーシャルワークプロセス

事前・事後学習

授業の理解を深めるため、毎回、事前に提示された指定事例に一時間くらいかけて取り組むこと。

授業内容

事例に基づいて演習を行なう。
 注意深く文章を読み込むことで、クライアントの「今」を把握する。

成績評価方法

平常点：40%
 レポート：60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. 激昂した無職の男性と泣き出した休職中の女性②
2. 一人暮らしを希望する双極性障害の長期入院の女性①
3. 一人暮らしを希望する双極性障害の長期入院の女性②
4. “死にたい”と任意入院を繰り返す男性①
5. “死にたい”と任意入院を繰り返す男性②
6. 映画スターになりたいと口癖のように言う長期入院者①
7. 映画スターになりたいと口癖のように言う長期入院者②
8. 子の暴力に怯え、入院させてほしいと一点張りの母親①
9. 子の暴力に怯え、入院させてほしいと一点張りの母親②
10. 電話をかけてきて突“死にたい”と訴える女性①
11. 電話をかけてきて突然“死にたい”と訴える女性②
12. 怒り交じりの用件をいきなり訴える母親①
13. 怒り交じりの用件をいきなり訴える母親②
14. 毎日のように電話をかけてくる契約外の女性①
15. 毎日のように電話をかけてくる契約外の女性②

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 田村綾子『ソーシャルワークプロセスにおける思考過程』中央法規 2017
 《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32068100:	精神医学A	(加藤 敬徳)			
単 位	2	期 別	春集中	学 年	2年次～

到達目標

社会・福祉を学ぶ上で必要な精神医学的な知識を身につけ、現場でそれを応用できることを目指す。精神保健福祉士の資格試験に合格できるレベル。

1.精神医学の専門用語を理解する。2.精神疾患の診断と治療を理解する。3.精神医学と社会との関係について学ぶ。

キーワード

器質性精神障害、認知症、依存症、統合失調症 気分(感情)障害

事前・事後学習

事前学習

・前回の授業の復習を行い、専門用語を理解しておく。

事後学習

・授業の内容を復習し、専門用語を理解する。

授業内容

精神医学についての基礎や精神疾患を理解した上で、更に身近な精神医療について学んでゆく。映像資料を使用して知識の定着を図る。

成績評価方法

授業中の積極的な参加(授業態度、発表):30% 前期定期試験:70%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 精神医学とその歴史 | 9. アルコール依存症 |
| 2. 脳および神経の生理・解剖 | 10. 統合失調症 I |
| 3. 精神障害の診断・検査・状態像 | 11. 統合失調症 II |
| 4. 器質性精神障害 | 12. 統合失調症 III |
| 5. 認知症 I | 13. 気分障害 I |
| 6. 認知症 II | 14. 気分障害 II |
| 7. てんかん | 15. 自殺関連 |
| 8. 依存症 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 授業時に配布された資料

＜参考文献＞ 最新 精神保健福祉士養成講座第1巻 精神医学と精神医療 中央法規出版

その他

実施日:8月8日、9日、10日

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32068200:	精神医学B	(加藤 敬徳)			
単位	2	期別	秋集中	学年	2年次～

到達目標

社会・福祉を学ぶ上で必要な精神医学的な知識を身につけ、現場でそれを応用できることを目指す。精神保健福祉士の資格試験に合格できるレベル。

1. 精神医学の専門用語を理解する。
2. 精神疾患の診断と治療を理解する。
3. 精神医学と社会との関係について学ぶ。

キーワード

神経症性障害、パーソナリティ障害、ライフサイクル、メンタルヘルス、精神障害の治療

事前・事後学習

事前学習

- ・ 前回の授業の復習を行い、専門用語を理解しておく。

事後学習

- ・ 授業の内容を復習し、専門用語を理解する。

授業内容

精神医学についての基礎や精神疾患を理解した上で、更に身近な精神医療について学んでゆく。身近な精神疾患について学ぶとともに、ライフサイクルや社会・文化との関係についても理解してゆく。映像資料を使用して知識の定着を図る。

成績評価方法

授業中の積極的な参加(授業態度、発表): 30% 後期定期試験: 70%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 神経症性障害
2. ストレス関連障害・心身症
3. 生理的障害および身体要因に関連した障害
4. パーソナリティ障害
5. 精神遅滞
6. 心理的発達の障害
7. ライフサイクルにおける精神医学 I
8. ライフサイクルにおける精神医学 II
9. 引きこもり
10. 精神障害の治療 I
11. 精神障害の治療 II
12. 精神障害の治療 III
13. 病院精神医療
14. 社会・文化とメンタルヘルス
15. 地域精神医療と精神科救急医療

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 授業中に配布する資料

〈参考文献〉 最新 精神保健福祉士養成講座第1巻 精神医学と精神医療 中央法規出版

その他

実施日: 2月13日、14日、15日

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32069100:	精神保健学A～現代社会の病理	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

- 精神保健の基本的考え方を理解する
- 現代社会における精神保健の諸問題を生活環境ごとに理解する

キーワード

社会問題 社会環境問題 対人関係 メンタルヘルス

事前・事後学習

- 事前学習：・毎日、新聞を読むこと ・社会に関するニュースに関心をもって見ること
- 事後学習：・毎回配布するレジメに基づく復習をすること

授業内容

精神保健は社会情勢・社会環境と深くかかわっている。また、健康概念の変化により、社会福祉学、心理学、公衆衛生学、社会学等の知見がもたらされている。
対象者を一人の人として捉え、社会環境問題も含めた総合的判断のできる専門性を獲得することを目標とする。

成績評価方法

- 定期試験：80%
- 平常点(出席、授業への参加度、レポート)：20%

課題に対するフィードバック

- ・小レポート回収後、学生間でのディスカッションを行い、多様な意見を知り、自分の価値観を養う

授業計画

1. オリエンテーション ー精神保健の概要ー
2. 現代の精神保健分野の動向と基本的理解 ー衛生行政報告、地域保健事業報告ー
3. 精神保健の基本的理解 ー包括的地域精神保健の取組みー
4. 精神の健康に関する心的態度 ー生活と嗜癖ー
5. 家族に関する精神保健の課題 ーDV、児童虐待、介護、高齢者虐待ー
6. 家族に対する精神保健の課題 ー社会的ひきこもりー
7. 家族に対する精神保健の課題 ー支配、共依存、グリーフケアー
8. 精神保健から見た学校教育の課題 ーいじめ、暴力、不登校、自殺、非行ー
9. 精神保健から見た学校教育の課題 ー教員の精神保健ー
10. 精神保健から見た学校教育の課題 ースクールソーシャルワーカーの役割ー
11. 精神保健から見た学校教育の課題 ー関連法と関連社会資源ー
12. 勤労者の精神保健と課題 ー過労働、過労自殺ー
13. 勤労者の精神保健と課題 ーストレスチェック、職場環境改善ー
14. 勤労者の精神保健と課題 ー企業内保健活動、関連法と関連機関ー
15. まとめ・総括

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 「現代の精神保健の課題と支援」 中央法規
- ＜参考文献＞ 授業時に、関連する文献をその都度示す

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32069200:	精神保健学B～現代社会の病理	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

- 精神保健の保持・増進、発生予防、関係機関の役割・連携について理解する
- WHOによる国際的精神保健活動、他国の精神保健対策の理解

キーワード

社会環境 社会関係性 孤独・孤立 依存/虐待 メンタルヘルス

事前・事後学習

- 事前学習：・毎日、新聞を読むこと ・社会に関するニュースに関心をもって見ること
- 事後学習：・毎回配布するレジメに基づく復習をすること

授業内容

精神保健は社会情勢・社会環境と深くかかわっている。また、健康概念の変化により、社会福祉学、心理学、公衆衛生学、社会学等の知見が求められる。
社会環境の変化を通して精神保健を理解し、メンタルヘルスの思考、知識を深めることを目標とする

成績評価方法

期末試験：80% 平常点(出席、授業への参加度、レポート)：20%

課題に対するフィードバック

- ・小レポート回収後、学生間でのディスカッションを行い、多様な意見を知り自分の価値観を養う

授業計画

1. オリエンテーション 前期の総復習
2. 現代の精神保健課題とアプローチ -災害被災者、犯罪被害者の精神保健-
3. 現代の精神保健課題とアプローチ -自殺予防、貧困とストレス-
4. 現代の精神保健課題とアプローチ -ホームレス、LGBT-
5. 現代の精神保健課題とアプローチ -異文化ストレス、薬物、盗癖等の反復行為-
6. 精神保健の発生予防と対策 -アルコール問題、薬物依存-
7. 精神保健の発生予防と対策 -ギャンブル等依存対策、自殺予防対策-
8. 精神保健の発生予防と対策 -子育て支援、認知症対策-
9. 精神保健の発生予防と対策 -ひきこもり対策、災害時精神保健対策-
10. 地域精神保健に関する差別・偏見の課題 -関係法規、人材育成-
11. 精神保健に関する専門機関と国等の役割 -国の機関、関係法規の理解-
12. 精神保健に関する専門機関と国等の役割 -自治体の機関、学会、市民団体-
13. 諸外国の精神保健活動 -WHOなど国際機関の活動-
14. 諸外国の精神保健活動 -世界の精神保健の実情-
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 「現代の精神保健の課題と支援」 中央法規
- 《参考文献》授業時に必要な文献を紹介、提示する

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32070100:	精神科リハビリテーション学A	(出口 聖人)			
単 位	2	期 別	春集中	学 年	3年次～

到達目標

- 1)精神科ソーシャルワーク分野・領域におけるリハビリテーションの概念などをはじめ、当事者(本人や家族など)への支援の方法などについて理解できる。
- 2)精神科リハビリテーションの展開過程および精神保健福祉士に求められる姿勢などを理解できる。

キーワード

精神保健福祉士, 精神科リハビリテーション, 地域を基盤としたソーシャルワーク, リカバリー

事前・事後学習

当該科目の理解を深めるために事前・事後学習時に活用できる書籍は以下の「参考文献」欄の通りである。(※講義時に参考資料として紹介する文献を含む。)

授業内容

本講義では、精神科リハビリテーションの基本的な考え方や概念、原則、理念などの基本的な知識の修得をはじめ、支援の実際や精神保健福祉士が行う支援や当事者へのかかわりなど、基礎から発展まで幅広い内容の理解を深める。

成績評価方法

授業への取り組み状況や姿勢(出席の状況を含む):30%/定期試験(レポート試験):70%

課題に対するフィードバック

適宜フィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション/精神科リハビリテーションとソーシャルワーク(概要)
2. 精神科リハビリテーションとは(1)
3. 精神科リハビリテーションとは(2)
4. 精神科リハビリテーションとは(3)
5. 精神科リハビリテーションとは(4)
6. 精神科リハビリテーションの展開/プログラムの内容(1)
7. 精神科リハビリテーションの展開/プログラムの内容(2)
8. 精神科リハビリテーションの展開/プログラムの内容(3)
9. 精神科リハビリテーションの展開/プログラムの内容(4)
10. 精神科リハビリテーションの展開/プログラムの内容(5)
11. 精神科リハビリテーションの展開/プログラムの内容(6)
12. 精神科リハビリテーションの実際(1)
13. 精神科リハビリテーションの実際(2)
14. 精神科リハビリテーションの実際(3)
15. 総括

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 講師が使用する教科書は以下の文献である。購入の有無は受講生にゆだねる。
 ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)「最新 精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論」中央法規
- 〈参考文献〉 ・池淵恵美(2019)「こころの回復を支える精神障害リハビリテーション」医学書院
 ・R・P・リバーマン(著)/西園昌久(監修)(2011)「精神障害と回復-リバーマンのリハビリテーション・マニュアル-」星和書店
 ・野中猛(2003)「図説 精神障害リハビリテーション」中央法規

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32070200:	精神科リハビリテーション学B	(出口 聖人)			
単 位	2	期 別	秋集中	学 年	3年次～

到達目標

- 1)精神科ソーシャルワーク分野・領域におけるリハビリテーションの概念、原則、理念などをはじめ、当事者(本人や家族など)への支援のあり方について理解できる。
- 2)精神障害リハビリテーションの展開過程や精神保健福祉士が担う役割を理解できる。

キーワード

精神保健福祉士、精神科リハビリテーション、地域を基盤としたソーシャルワーク、リカバリー

事前・事後学習

当該科目の理解を深めるために事前・事後学習時に活用できる書籍は以下の「参考文献」欄の通りである。(※講義時に参考資料として紹介する文献を含む。)

授業内容

本講義では、精神障害リハビリテーションの基本的な考え方や概念、原則、理念などの基本的な知識の修得をはじめ、支援の実際や精神保健福祉士が行う支援や当事者へのかかわりなど、基礎から発展まで幅広い内容の理解を深める。

成績評価方法

授業への取り組み状況や姿勢(出席の状況を含む):30%/定期試験(レポート試験):70%

課題に対するフィードバック

適宜フィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション/精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク
2. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(1)
3. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(2)
4. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(3)
5. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(4)
6. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(1)
7. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(2)
8. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(3)
9. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(4)
10. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(5)
11. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(6)
12. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(7)
13. 精神障害リハビリテーションの動向と実際(1)
14. 精神障害リハビリテーションの動向と実際(2)
15. 総括

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 講師が使用する教科書は以下の文献である。購入の有無は受講生にゆだねる。
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)「最新 精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論」中央法規
- 《参考文献》 ・池淵恵美(2019)「こころの回復を支える精神障害リハビリテーション」医学書院
- ・R・P・リバーマン(著)/西園昌久(監修)(2011)「精神障害と回復-リバーマンのリハビリテーション・マニュアル」星和書店
 - ・野中猛(2003)「図説 精神障害リハビリテーション」中央法規

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32071110:	精神保健福祉論IA	(鴨野 直敏)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度の概要と実際を理解し、精神保健福祉法の概要を理解できる。
- ・精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービスを理解し、障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際を理解できる。

キーワード

精神保健福祉法、ソーシャルワーク実践、精神保健福祉士の役割、障害者総合支援法

事前・事後学習

テキストにおける大項目・中項目において自分なりにネットから検索して調べてくる。

授業内容

- ・精神障害者への相談援助活動と精神保健福祉法とのかかわりの理解 ・精神障害者への支援制度、
- ・福祉サービスの知識と支援内容の理解 ・精神障害者への支援施設、団体、関連機関等の理解、
- ・障害者総合支援法における精神障害者への福祉サービスの理解

成績評価方法

期末レポート：80%

平常点(受講態度、出席、レポート等)：20%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1. ①オリエンテーション
②精神障害者に関する制度・施策の体系 | 9. 障害者総合支援法における相談支援制度の実際 |
| 2. 精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴 | 10. 居住支援制度の概要と実際 |
| 3. 精神障害者に関する制度活用の流れ・事例から | 11. 就労支援制度の概要と実際 |
| 4. 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 | 12. 精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割 |
| 5. 精神科医療が関わりをもつ施策 | 13. 所得保障にかかわる経済的支援 |
| 6. 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 | 14. 精神障害者の経済的負担の軽減施策 |
| 7. 精神障害者の医療と関連する施策 | 15. 生活保護制度と生活困窮者自立支援制度の概要と実際 |
| 8. 障害者総合支援法における生活支援の基本的考え方 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『精神保健福祉制度論』中央法規2021
 〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b32071120:	精神保健福祉論IB				(鴨野 直敏)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者について理解できる。
- ・更生保護制度と医療観察法の概要と実際を理解し、精神保健福祉との関係を理解できる。
- ・社会資源の調整・開発にかかわる社会調査法について理解し、質的調査法と量的調査法の双方を使いこなすことができる。

キーワード

フォーマルサポート、インフォーマルサポート、更生保護制度、医療観察法、量的調査、質的調査

事前・事後学習

テキストにおける大項目・中項目について自分なりにネットから検索して調べてくる。

授業内容

- ・精神障害者の支援に必要な資源について理解する。
- ・相談援助にかかわる行政組織と民間組織について理解する。
- ・更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係について理解する。
- ・医療観察法の概要と実際について理解する。
- ・社会資源の調整・開発にかかわる社会調査法について理解する。

成績評価方法

期末レポート：80%

平常点(受講態度、出席、レポート等)：20%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1. 精神障害者の支援に必要な資源の基本的考え方 | 9. 医療観察法の意義と内容 |
| 2. 相談援助にかかわる行政組織と民間組織 | 10. 医療観察法の審判と精神保健参与員の役割 |
| 3. 福祉サービス提供施設・機関の役割 | 11. 社会復帰調整官の役割と実際 |
| 4. インフォーマルな社会資源の役割 | 12. 医療観察法施行後の現状と課題 |
| 5. 専門職や地域住民の役割と実際 | 13. 社会調査の意義と目的、対象 |
| 6. 刑事司法と更生保護制度 | 14. 量的調査法と質的調査法の違い、活用における留意点 |
| 7. 保護観察所と更生保護の担い手 | 15. 混合研究法の使い方とICTの活用方法、まとめ |
| 8. 司法・医療・福祉の連携の必要性と実際 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規 2019

＜参考文献＞

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32074100:	障害者スポーツ論	(猪飼 聡)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・障害者がスポーツを行う意義について理解できる
- ・障害者スポーツの特長や留意点について理解できる
- ・実際に障害者スポーツを経験し、指導の方法について理解できる

キーワード

パラリンピック、アダプテッドスポーツ、ノーマライゼーション

事前・事後学習

- 事前学習：授業のテーマについて事前に予想できるキーワードを調べておくこと
 事後学習：授業で学習した内容を毎回まとめること(次回授業の冒頭で確認する。)

授業内容

障害のある人のスポーツとはどのようなものでしょうか?特に難しく考える必要はありません。障害に応じたルールや用具の工夫によって誰もがスポーツを楽しむことができます。現在障害者スポーツは、リハビリテーションの延長として行うものからトップアスリートが活躍するパラリンピックなどの競技会に至るまで非常に幅広く行われています。身体障害者だけでなく知的障害、精神障害などのある人々のスポーツも盛んにおこなわれており、指導を求めるニーズは昨今非常に高くなってきています。本講義では、映像(スポーツの紹介やドキュメンタリーなど)や実技体験、施設の見学などを授業に取り入れ、障害者スポーツをイメージしやすいよう、工夫して進めていく予定です。

成績評価方法

平常点：40% (主に授業態度などを評価します。)レポートの内容：40% (期末のレポート試験の内容を評価します。)実技点：20% (実技や施設見学での取り組み態度などを評価します。)

課題に対するフィードバック

各授業の冒頭で前回授業の要点をフィードバックする。

授業計画

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. オリエンテーション(障害者スポーツの意義、理念、課題と指導者制度について) | 9. 障害区分とクラス分け |
| 2. 障害者スポーツ概論①(障害者スポーツの紹介) | 10. 障害別のスポーツ支援の方法 |
| 3. 障害者スポーツ概論②(障害者スポーツの現場) | 11. 障害者スポーツの実技①(ポッチャ基本) |
| 4. スポーツは生きる力 | 12. 障害者スポーツの実技②(ポッチャ応用) |
| 5. 障害論①(身体障害の理解) | 13. 障害者スポーツの実技③(フライングディスク基本) |
| 6. 障害論②(知的障害と精神障害の理解) | 14. 障害者スポーツの実技④(フライングディスク応用) |
| 7. 障害者スポーツの歴史①(国際の歴史) | 15. 障害者スポーツの実技⑤(卓球バレー) |
| 8. 障害者スポーツの歴史②(国内の歴史、全国障害者スポーツ大会を中心に) | |

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 科目担当者が毎回資料を配布する。
 〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32076100:	権利擁護と成年後見制度	(明石 隆行)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

権利擁護の理念、成年後見制度及び社会福祉士としての社会福祉援助における権利擁護活動について理解する。

キーワード

法、憲法、民法、基本的人権、ソーシャルワーク、権利擁護、成年後見制度、後見、保佐、補助、身上保(監)護、意思決定支援、成年後見制度利用促進法、成年後見制度利用促進計画、中核機関、家庭裁判所、弁護士、司法書士、市民後見人、成年後見制度利用支援事業、市町村長申立て、地域連携ネットワーク、多職種連携、日常生活自立支援事業

事前・事後学習

事前：指定したテキストで授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめる。

事後：随時、振り返りシートを作成する。

授業内容

判断能力の不十分な高齢者や障がい者などに対して、常に最善の方法を用いて利益と権利を擁護する専門職である社会福祉士は、社会福祉援助における権利擁護の理念及び成年後見制度について深い理解を有することが求められる。また、成年後見人等としても活躍する社会福祉士には、財産管理を中心とした後見活動と、意思決定支援とサービス利用の選択、利用契約にかかわる身上監護についての実務面についての知識も必要とされることから、実務面についても学ぶ。

成績評価方法

平常点40%(授業内の小レポート等)、定期試験60%を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. オリエンテーション | 9. 市民後見人の養成・活動支援 |
| 2. 法の基礎 | 10. 成年後見活動の実際(1) |
| 3. 権利擁護・ソーシャルワーク・法の関わり | 11. 成年後見活動の実際(2) |
| 4. 成権利擁護の意義と支える仕組み | 12. 成年後見制度の実務 |
| 5. 成年後見制度(1)概要 | 13. 成年後見制度の最近の動向 |
| 6. 成年後見制度(2)後見類型 | 14. 日常生活自立支援事業 |
| 7. 成年後見制度(3)意思決定支援 | 15. まとめ |
| 8. 権利擁護にかかわる組織、団体、専門職 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 9 権利擁護を支える法制度』中央法規 2021年
 《参考文献》適宜紹介する。

その他

【授業担当者の実務歴】大阪府のケースワーカーとして福祉事務所や児童相談所等において相談支援業務に従事。大阪府下及び兵庫県下の成年後見支援センター等の運営協議会等や、市民後見人の受任調整会議等において権利擁護活動に従事。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32077100:	更生保護制度	(渡邊 洋祐)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

罪を犯した人と犯罪被害者の双方の現状・法制度・支援の実際を理解し、加害者も被害者も生活者として関わるができるように、知識・技術・価値を獲得する。

キーワード

再犯防止推進法・改正少年法・第4次犯罪被害者等基本計画

事前・事後学習

司法福祉、犯罪被害者支援に関係する時事問題を支援者視点で確認しておくこと。

授業内容

刑事司法と福祉の考え方の違いを理解した上で、対象者の支援や他職種との連携・刑事司法分野で活動するソーシャルワーカーの支援の実際について学ぶ。また、刑事司法におけるもう一方の当事者である犯罪被害者の現状や法制度・支援の実際について学ぶ。

また講義の中で過去問を解くことで、国試に向けての解答力をつける。

成績評価方法

平常点：20% 過去問・振り返りシート：20% 定期試験：60%

課題に対するフィードバック

授業後に質問や感想を記した振り返りシートの提出を求める。ここで出された質問等については、次回授業の冒頭で解説をくわえる。

授業計画

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. オリエンテーション・「刑事司法と福祉」総論① | 9. 施設内処遇：少年 |
| 2. 「刑事司法と福祉」総論② | 10. 犯罪被害者支援① |
| 3. 刑事司法 | 11. 犯罪被害者支援② |
| 4. 施設内処遇：成人 | 12. 犯罪被害者支援③ |
| 5. 更生保護制度① | 13. 多様なニーズを有する犯罪行為者① |
| 6. 更生保護制度② | 14. 多様なニーズを有する犯罪行為者② |
| 7. 医療観察制度 | 15. 総括 |
| 8. 少年司法 | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 最新・社会福祉士養成講座 刑事司法と福祉 中央法規

＜参考文献＞ 司法福祉・実践と展望—少年司法、刑事司法、医療観察、被害者支援— ぎょうせい
その他適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32081100:	仏教福祉学研究1A～近代仏教教団の慈善事業・社会事業の研究	(宮城 洋一郎)			
単位	2	期別	春学期	学年	3年次～

到達目標

近代の仏教教団に関わる慈善事業・社会事業から、社会的貢献の意義を理解することができる。

キーワード

近代仏教教団 慈善事業 社会事業 民衆教化 社会貢献

事前・事後学習

配付する『原典仏教福祉』を参考に事前学習しておく。

各回ごとの講義要約を振り返り、提示した参考文献を手がかりに事後学習する。

授業内容

近代(明治期から昭和戦前期)の仏教教団が担った慈善事業・社会事業について、歴史的背景と学術的な根拠付けを検討しながら、その実践の意義を考えていく。そこから、仏教教団がどのように一般民衆と関わり、社会貢献を果たしてきたかを明らかにして、現代社会へのつながりを展望していく。

成績評価方法

- 1) 平常点: 毎回の出席状況を基礎に算定(40%)
- 2) 講義終了後に提出する簡易なレポート: 3回程度実施(60%)

課題に対するフィードバック

講義ごとに質問・意見を募り、適切に助言していく。

授業計画

- | | |
|---|---|
| 1. はじめに: 講義の全体像を提示し、本講義のねらいを共有 | 9. 渡辺海旭と浄土宗労働共済会: その活動理念と実践内容 |
| 2. 近代社会のはじまりと近代仏教教団の成立 | 10. 仏教社会事業の理論と実践: 矢吹慶輝、長谷川良信 |
| 3. 慈善事業に寄与した僧侶一釈雲照、福田行誠 | 11. 仏教セツルメントの展開: 佐伯祐正、林文雄 |
| 4. 慈善事業に寄与した女性: 颯田本真尼、奥村五百子 | 12. 西光万吉と全国水平社 |
| 5. 慈善事業に寄与した僧侶一島地黙雷、近角常観 | 13. 真言宗の社会事業(1): 祖風宣揚会と済世病院 |
| 6. 慈善事業の実践に寄与した僧侶: 安達憲忠、綱脇龍妙 | 14. 真言宗の社会事業(2): 成田学園、讃岐学園、智山派・豊山派の社会事業 |
| 7. 仏教慈善事業団体(1): 福田会育児院 | 15. まとめ: 全14回の振り返りと討議・意見交換 |
| 8. 仏教慈善事業団体(2): 大日本仏教慈善会財団、大谷派慈善協会、日蓮宗慈濟会 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉『原典仏教福祉』(北辰堂)最初の講義に配付

〈参考文献〉吉田久一、長谷川匡俊『日本仏教福祉思想史』法蔵館、2001年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32081200:	仏教福祉学研究1B～現代仏教教団の社会福祉事業の研究	(宮城 洋一郎)			
単位	2	期別	秋学期	学年	3年次～

到達目標

現代仏教教団の社会福祉事業からその意義と可能性を考え、理解する。

キーワード

現代仏教教団の社会福祉事業、仏教徒の社会貢献、仏教徒の災害支援

事前・事後学習

授業計画に従って、関係する文献等を事前に調べておく。

配付した「講義要約」で授業を振り返り、提示された参考文献を調べて事後学習としていく。

授業内容

本講義では、仏教社会福祉の豊かな歴史を踏まえて、現代仏教教団が取り組んだ諸事業を検証していく。特に、仏教教団が現代の諸課題にどう対応したかを中心に問題点を抽出して検討していく。そこから、現代社会において仏教教団が果たすべき役割と意義を考えていく。

成績評価方法

- 1) 平常点：毎回の出席状況を基礎に算定(40%)
- 2) 講義終了後に提出する簡易なレポート：3回程度実施(60%)

課題に対するフィードバック

講義ごとに質問・意見を募り、適切に助言していく。

授業計画

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 本講義の全体像を提示し、講義に取り組むための諸準備について説明。 2. 戦後復興期の仏教教団の生活支援事業 3. 仏教教団の児童福祉事業 4. 仏教教団の高齢者福祉事業、障がい者福祉事業 5. 仏教教団の地域福祉事業、海外支援事業 6. 仏教教団の人権・同和問題への取り組み 7. ピハラー活動の成立：「臨終行儀」からピハラー活動へ 8. 臨床宗教師の成立と発展 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 臓器移植問題と仏教教団 10. 仏教教団と災害支援：阪神淡路大震災(1) 11. 仏教教団と災害支援：阪神淡路大震災(2) 12. 仏教教団と災害支援：東日本大震災への取り組み(1)：関連文献と支援のフェーズ 13. 仏教教団と災害支援：東日本大震災への取り組み(2)：各教団の活動概要 14. 仏教教団と災害支援：東日本大震災への取り組み(3)：心のケアと原発への対応 15. まとめ 全体の振り返りをおして。今後の課題について意見交換する。 |
|--|---|

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 授業ごとに「講義要約」および「資料」を配付。

〈参考文献〉 長谷川匡俊編『戦後仏教社会福祉事業の歴史』法蔵館、2007年

その他

コード	履修科目名		(担当教員)		
b32090100:	精神保健福祉援助実習指導I		(鴨野 直敏)		
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

クライアントへの観察力を養うことで、実践での場面を仮定して個別面接が行えるようになる。

キーワード

実習日誌、事前学習、実習機関、ディスカッション

事前・事後学習

事後学習として、実習日誌の書き方を習ったら、1時間くらいかけて自分のものとして取り込むこと。

授業内容

- ・日常で気になった事柄をレポートにして自己の言動の推察をしていく。
- ・精神障害者にとっての治療機関としてどのような病院があるのか、生活支援機関としてどのような施設があるのかを理解する。
- ・他者とのロールプレイを行なうことによって実践場面を感じ取る。

成績評価方法

平常点：100%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. 実習日誌の書き方練習と施設調べ①
2. 実習日誌の書き方練習と施設調べ②
3. 実習日誌の書き方練習と施設調べ③
4. 実習日誌の書き方練習と施設調べ④
5. 実習日誌の書き方練習と施設調べ⑤
6. 実習日誌の書き方練習と施設調べ⑥
7. 精神保健福祉士 (PSW) の具体的な仕事内容について考える
8. 精神障害者の障害特性について考える①
9. 精神障害者の障害特性について考える②
10. 来年、配属先となる実習先について学生間でディスカッション実施
11. ゲストスピーカーに関する事前調べ実施
12. ゲストスピーカーによる学生との懇談会実施
13. ディスカッション実施
14. ディスカッション内容をレポートにまとめる
15. 自分が翌年に行く実習先について学生間で討論する

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習』
 [精神専門]中央法規2021

《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32090200:	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	(鴨野 直敏)			
単 位	1	期 別	春学期	学 年	4年次

到達目標

実習前準備段階を終えて実習に臨む態勢を作ることができる。

キーワード

見学実習、倫理綱領、スーパービジョン

事前・事後学習

精神障害者(発達障害者を含む)の障害特性について学んだら、自分のものとして理論化できるようにしておく。

授業内容

- ・施設・病院の見学実習を行ない、精神障害者の日常を知る。
- ・実習に行く目標を明確にする。
- ・精神障害者を対象に事例検討を行ない、実際の実習場面でどのように接したら良いのが明確にする。

成績評価方法

平常点：100%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行なう。

授業計画

1. オリエンテーション。見学実習について考える。
2. 精神障害者に対してサービスを提供する施設について考える。
3. 精神障害者に対してケアを提供する病院・クリニックについて考える。
4. 実習に行く目標を立てる①(実習で何を学びたいのか)
5. 実習に行く目標を立てる②(どのような心構えで行けば良いのか)
6. 病院・施設見学
7. 学生間での意見交換
8. 精神保健福祉士倫理綱領について学生間で議論する
9. 目標の見直し(個人面談)
10. 施設・病院概要についてのディスカッション
11. 事例検討①(統合失調症患者に自分だったらどのように接するのか?)
12. 事例検討②(うつ病患者に自分だったらどのように接するのか?)
13. 事例検討③(発達障害者に自分だったらどのように接するのか?)
14. 事例検討④(依存症患者に自分だったらどのように接するのか?)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

《テキスト》日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習』
[精神専門]中央法規2021

《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32090300:	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	(鴨野 直敏)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	4年次

到達目標

精神保健福祉士現場実習において遭遇した困った出来事について学生間で討論し、得たことへと変化できる。

精神保健福祉士現場実習において、どのようなアプローチ方法を使い援助したら良いか理解できる。

キーワード

フィードバック、家族支援アプローチ、多職種連携

事前・事後学習

- ・実習発表において、自分が実習で得た内容を発表レベルまでに高めておく。
- ・他者の発表内容で自分に合った内容と感じたら、積極的に取り入れるようにする。

授業内容

・精神保健福祉士現場実習において遭遇した困った出来事、得られたことを学生間でシェアする。

成績評価方法

- 平常点：20%
- 授業内発表：20%
- 実習担当者評価：20%
- 実習ノート：20%
- 報告会：20%

課題に対するフィードバック

フィードバックとして、学生間で発表された実習内容をまとめて連結不可能匿名化しプリント配布する。

授業計画

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 発表準備 | 9. 実習内容の掘り下げ④ |
| 2. 実習発表① | 10. 実習内容の掘り下げ⑤ |
| 3. 実習発表② | 11. 家族支援アプローチ① |
| 4. 実習発表③ | 12. 家族支援アプローチ② |
| 5. 実習発表④ | 13. 多職種連携アプローチ |
| 6. 実習内容の掘り下げ① | 14. 実習報告会準備 |
| 7. 実習内容の掘り下げ② | 15. 実習報告会 |
| 8. 実習内容の掘り下げ③ | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習』
 [精神専門]中央法規2021

〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名		(担当教員)		
b32091110:	精神保健福祉援助実習-1		(鴨野 直敏)		
b32091120:	精神保健福祉援助実習-2		(福井 未来)		
単 位	6	期 別	通年集中	学 年	4年次

到達目標

施設・病院等への現場実習を通して対人援助技術を磨き、精神障害者への具体的支援プロセスを構築できるようにする。

キーワード

実習計画、スーパービジョン、振り返り

事前・事後学習

- ・事前に自分が行くことになる施設・病院等について下調べを行うこと。
- ・事後学習として、実習担当者からスーパービジョンを受けたら、自分のものとして取り入れること。

授業内容

- ・実習計画に基づいた現場実習を行い、巡回による個別指導を受けることで、精神障害者の置かれた現状を実践的に理解する。
- ・精神保健福祉士が担う業務を確認し、精神保健福祉士としての職業的アイデンティティの獲得を目指す。

成績評価方法

配属先実習評価50%
個別指導での課題等50%

課題に対するフィードバック

実習報告会を行ない、精神保健福祉援助実習から得られた知見を発表する。

授業計画

1. 病院・クリニック、施設における配属実習先で実習を行なう。
2. 実習期間中の各施設・各病院の指導者による指導を受ける。
教員による巡回指導を受ける。
利用者の持っている力(ストレングス)について考える。
受入施設・病院の法人概要の理解を行なう。
利用者の話を事実としてそのまま受け止めるのではなく、なぜ、そのような発言や出来事が起こるのか背景を考える。
所属する施設・病院により、精神保健福祉士の業務が異なる事実を理解する。

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉

〈参考文献〉 井上信子、神田橋條治『対話の技 資質により添う心理援助』新曜社2001年

その他

コード	履修科目名				(担当教員)
b32093100:	社会福祉調査論				(西牟田 真希)
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

社会調査(量的調査)のしくみを理解し、調査データの読み取りと分析・考察が出来る調査票を企画・立案して、調査計画書を作成させる

キーワード

事前・事後学習

授業内容

この講義では、社会福祉で実施される社会調査に必要な問いの立て方や調べ方を学び、調査を行うための基本的な概念や方法を学ぶことを目的とする。社会福祉調査論では、特に調査票(アンケート)を用いた調査法や統計分析などの量的調査の基礎を学ぶ。講義形式ではあるが、授業中に文献を集めたり、計算をしたりしながら授業を進めることもある。必要な知識と調査法を習得したのち、過去の社会調査を調べて比較し、各自で調査票を用いた調査を企画・立案してレポートを作成する。なお、社会調査(質的調査)の実践的な方法に関心がある者は、秋学期に開講される社会福祉調査論Bを合わせて受講することをおすすめする。

成績評価方法

平常点と授業課題(40%)、期末レポート(60%)により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 社会福祉調査の意義と目的 | 9. ソーシャルワークにおける評価 |
| 2. 量的調査の方法—独立変数と従属変数 | 10. データ収集分析 |
| 3. 質的調査の方法—仮説の設定と調査の必要性 | 11. 調査票の質問形式と回答形式—問いと選択肢を作ってみよう(2) |
| 4. テーマと仮説を決定して、調査デザインをしよう | 12. 調査データの集計・整理(1) |
| 5. 社会福祉調査のデザイン(倫理) | 13. 調査データの集計・整理(2) |
| 6. 社会福祉調査のデザイン(目的と対象) | 14. 調査結果の分析と考察 |
| 7. 調査票の質問形式と回答形式—問いと選択肢を作ってみよう(1) | 15. 社会福祉調査における倫理と個人情報保護 |
| 8. 社会福祉調査のデザイン(プロセス) | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特に指定しない。

〈参考文献〉 立石宏昭、『社会福祉調査のすすめ—実践のための方法論—(第2版)』ミネルヴァ書房、2010年
(授業で使用する場合は、該当部分を教員がプリントで配布する)

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32094100:	精神保健福祉の原理A	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

障害者福祉の理念と意義を踏まえ、他の障害者から遅れて福祉の世界に仲間入りした精神障害者の保健福祉サービスの実際と人権擁護について理解できる

キーワード

精神保健福祉士の専門性、相談援助、ソーシャルワークの価値・理念

事前・事後学習

- ・授業予定の内容を事前に読み、ノートにまとめておく
- ・学期に2回程度、授業時に小レポート(1000字程度)を作成する

授業内容

本授業では、①精神保健福祉士の専門性について理解
 ②相談援助活動の定義と概念について理解
 ③精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割についての理解 等を中心テーマとして進める

成績評価方法

平常点(50%)と定期試験(50%)を基本に評価する

課題に対するフィードバック

最終事業時に、全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 精神保健福祉の原理
2. 障害の捉え方
3. 障害者福祉の理念
4. 精神障害者福祉の歴史的展開
5. 制度における「精神障害者」の定義
6. 国際生活機能分類(ICF)と精神障害
7. 精神障害の「障害特性」
8. 精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流
9. 精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流(1)
10. 諸外国における排除の歴史とその後の展開(2)
11. 日本における排除の歴史と構造(1)
12. 日本における排除の歴史と構造(2)
13. 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み(1)
14. 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み(2)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞『精神保健福祉の原理』中央法規
- ＜参考文献＞ 適宜紹介する

その他

- ・以前、大阪府四條畷市において福祉事務所長(8年間)
- ・現在、大阪府下の地方自治体(大阪府、枚方市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、島本町)において、介護保険、障がい児(者)等の審議会委員及び各種社会福祉計画(介護保険、障がい者、子ども、地域福祉、街づくり等)の策定委員に従事

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32094200:	精神保健福祉の原理B	(小寺 鐵也)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

国際的に立ち遅れている日本の精神障害者の社会復帰に係わる精神保健福祉士の専門職としての理念や意義、活動について、精神保健福祉法に基づき理解できる

キーワード

包括的援助、権利擁護、多職種連携

事前・事後学習

- ・授業予定の内容を事前に読み、ノートにまとめておく
- ・学期に2回程度、授業時に小レポート(1000字程度)を作成する

授業内容

本授業では、①精神障害者の生活実態について学ぶ。②精神保健福祉分野における相談援助活動の現状と今後の課題について理解する。③総合的・包括的な援助の機能と概要について理解する。等を中心テーマとして進める

成績評価方法

平常点(50%)と定期試験(50%)を基本に評価する

課題に対するフィードバック

最終授業時に、全体向けにフィードバックを行う

授業計画

1. 精神科医療による生活への影響
2. 精神障害者の家族が置かれている状況
3. 精神障害者の社会生活の実際(1)
4. 精神障害者の社会生活の実際(2)
5. メンタルヘルスをめぐる新たな課題
6. 精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程
7. 精神保健福祉士による実践の価値・原理
8. 精神保健福祉士による実践の視野や視点
9. 援助における関係性
10. 精神保健福祉士法の理解
11. 精神保健福祉士法の職業倫理
12. 精神保健福祉士の業務特性と業務指針
13. 精神保健福祉士の職場・職域
14. 精神保健福祉士の業務内容とその特性
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞『精神保健福祉の原理』中央法規出版

＜参考文献＞ 適宜紹介する

その他

- ・以前、大阪府四條畷市において福祉事務所長(8年間)
- ・現在、大阪府下の地方自治体(大阪府、枚方市、守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、島本町)において、介護保険、障がい児(者)等の審議会委員及び各種社会福祉計画(介護保険、障がい者、子ども、地域福祉、街づくり等)の策定委員に従事

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32095100:	精神保健福祉制度論	(鴨野 直敏)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度の概要と実際を理解し、精神保健福祉法の概要を理解できる。
- ・精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービスを理解し、障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際を理解できる。

キーワード

精神保健福祉法、ソーシャルワーク実践、精神保健福祉士の役割、障害者総合支援法

事前・事後学習

- ・テキストにおける大項目・中項目において自分なりにネットから検索して調べてくる。

授業内容

- ・精神障害者への相談援助活動と精神保健福祉法とのかかわりの理解、・精神障害者への支援制度、
- ・福祉サービスの知識と支援内容の理解、・精神障害者への支援施設、団体、関連機関等の理解、
- ・障害者総合支援法における精神障害者への福祉サービスの理解

成績評価方法

期末レポート：80%

平常点(受講態度、出席、レポート等)：20%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1. ①オリエンテーション
②精神障害者に関する制度・施策の体系 | 9. 障害者総合支援法における相談支援制度の実際 |
| 2. 精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴 | 10. 居住支援制度の概要と実際 |
| 3. 精神障害者に関する制度活用の流れ・事例から | 11. 就労支援制度の概要と実際 |
| 4. 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 | 12. 精神障害者の暮らしに果たす経済的支援の意義と役割 |
| 5. 精神科医療が関わりをもつ施策 | 13. 所得保障にかかわる経済的支援 |
| 6. 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 | 14. 精神障害者の経済的負担の軽減施策 |
| 7. 精神障害者の医療と関連する施策 | 15. 生活保護制度と生活困窮者自立支援制度の概要と実際 |
| 8. 障害者総合支援法における生活支援の基本的考え方 | |

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『精神保健福祉制度論』中央法規2021
 〈参考文献〉 授業時に適宜紹介

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32096110:	ソーシャルワーク実習指導I-1	(近棟 健二)			
b32096120:	ソーシャルワーク実習指導I-2	(福井 未来)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	2年次～

到達目標

- ・相談援助実習に係わる知識と技術について理解できる
- ・実習記録の記録方法を理解し、体得できる
- ・実習計画を作成できる

キーワード

ソーシャルワーカー、実習計画、実習記録

事前・事後学習

- 事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
- 事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

社会福祉体系と社会福祉施設・機関・サービスの現状、課題や福祉サービス利用者理解、社会福祉専門職の業務内容・役割・専門及び関連技術、職業倫理に関する講義・演習を行う。また、実習記録の記録内容や記録方法、実習計画の作成についても講義・演習を行う。これらの講義・演習を通じて社会福祉体系と実践分野(施設機関・サービス)の把握と現状・課題に関する分析能力を身につける。授業の理解を深めるため毎回、一時間程度掛けて指定された課題に授業外で取り組むこと。

成績評価方法

平常点：40%課題 提出物の提出内容：60%

課題に対するフィードバック

課題提出後、都度コメントを行う

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会福祉士とは1
3. 社会福祉士とは2
4. 相談援助業務、関連業務の理解1
5. 相談援助業務、関連業務の理解2
6. 社会福祉士に求められる職業倫理1
7. 社会福祉士に求められる職業倫理2
8. 実習機関・施設の理解1
9. 実習機関・施設の理解2
10. 実習記録の内容及び方法1
11. 実習記録の内容及び方法2
12. 実習計画書作成1/実習目標・計画の概要(講義)
13. 実習計画書作成2/実習目標・計画の実際(演習)
14. 実習計画書作成3/実習目標・計画の実際(演習)
15. 配属実習オリエンテーション

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 適宜資料配布・提示する。
- ＜参考文献＞

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名		(担当教員)		
b32096200:	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		(近棟 健二)		
単 位	1	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

- ・相談援助実習に係わる知識と技術について理解できる
- ・実習記録の記録方法を理解し、体得できる
- ・実習計画を作成できる

キーワード

ソーシャルワーカー、実習計画、実習記録

事前・事後学習

- 事前学習-授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
- 事後学習-授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返りを行う。また、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けて実習記録の記録内容や記録方法、実習計画の作成についても講義・演習を行う。

成績評価方法

平常点:40%、課題提出物の提出内容:60%

課題に対するフィードバック

課題提出後、都度コメントを行う

授業計画

1. オリエンテーション/ソーシャルワーク実習Ⅰ振り返り、ソーシャルワーク実習Ⅱの進め方
2. 面談①/個別面談
3. 面談②/個別面談
4. 実習振り返り①/実習まとめ、自己評価の発表、質疑応答
5. 実習振り返り②/実習まとめ、自己評価の発表、質疑応答
6. 実習振り返り③/実習まとめ、自己評価の発表、質疑応答
7. 実習先理解①/実習施設理解
8. 記録の書き方①/実習記録の意義、記録の書き方
9. 記録の書き方②/記録の書き方実践
10. 実習先理解②/発表
11. 実習計画書作成①/実習目標・計画の概要(講義)
12. 実習計画書作成②/実習目標・計画の実際(演習)
13. 実習計画書作成③/実習目標・計画の実際(演習)
14. 配属実習オリエンテーション(実習実施に関する留意点、実習報告書の作成方法)
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 適宜資料配布・提示する。
- ＜参考文献＞

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32096300:	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	(近棟 健二)			
単 位	1	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

- ・課題の整理を行った上で実習報告書を作成できる・実習での体験を分析することで利用者のニーズやソーシャルワーカーの役割を理解できる・相談援助実習に係わる知識と技術について理解できる
- ・実習記録の記録方法を理解し、体得できる
- ・実習計画を作成できる

キーワード

ソーシャルワーカー、事例検討、実習報告書

事前・事後学習

- 事前学習-授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
 事後学習-授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

実習記録や実習体験を振り返り、課題の整理と実習報告書の作成を行う。また、実践事例検討、他職種連携、地域資源に関する検討を行う。これらを通じて社会福祉体系と実践分野(施設機関・サービスの把握と、現状・課題に関する分析能力を身につける。また、福祉サービス利用者・家族等(ニーズ把握含む)に関する理解を深め、問題解決にむけた援助のあり方と理解する。あわせて社会福祉専門職の役割、専門及び関連技術、職業倫理、他職種連携に関する理解と、理論化・体系化できる能力を身につける。

授業の理解を深めるため毎回、一時間程度掛けて指定された課題に授業外で取り組むこと。

成績評価方法

平常点：40% 課題提出物の提出内容：60%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 巡回指導
2. 巡回指導
3. オリエンテーション/実習報告書(総括レポート)作成・実習報告会要領等
4. グループディスカッション/配属実習のフィードバック(演習)
5. 実習における課題の整理と全体評価、実習総括レポートの作成/(演習)
6. 配属実習報告会1
7. 配属実習報告会2
8. ケースカンファレンスの方法(講義)
9. ケースカンファレンス(事例検討)
10. ケースカンファレンス(事例検討)
11. 利用者・関係者(家族等)との援助関係に関する検討
12. 利用者・関係者(家族等)との援助関係に関する検討
13. 他職種連携、機関連携、地域資源に関する検討
14. 他職種連携、機関連携、地域資源に関する検討
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 適宜資料配布・提示する。

＜参考文献＞

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32097110:	ソーシャルワーク実習I-1	(近棟 健二)			
b32097120:	ソーシャルワーク実習I-2	(福井 未来)			
b32097130:	ソーシャルワーク実習I-3	(佐伯 俊源)			
単 位	2	期 別	秋集中	学 年	2年次～

到達目標

- ・実習計画に基づいた目標の達成
- ・実習体験を通じた自己覚知、課題の把握

キーワード

社会福祉士、実習記録

事前・事後学習

- 事前学習－実習計画書に基づき日々の目標を定めること
- 事後学習－日々の体験を実習記録にまとめること

授業内容

実習計画に基づいた現場実習と巡回による個別指導を行うことで相談援助に係る知識と技術に関する具体的かつ実際の理解と実践的な技術等の体得、また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力の習得を目指す。

成績評価方法

- 配属先実習評価：40%
- 個別指導での課題等：60%

課題に対するフィードバック

巡回指導時にフィードバックを行う。

授業計画

1. 実習計画書作成/(実習前)個別指導
2. 実習施設における配属実習の実施/56時間(7日)
(実習指導者の指導内容等)
 - ①利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーション等円滑な人間関係の形成
 - ②施設等のサービスの管理運営の実際
3. 実習における巡回指導/(実習中)実習指導者との調整、個別指導
4. 実習に関するスーパービジョン/(実習後)個別指導

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 適宜資料配布・提示する。
- 《参考文献》

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32097210:	ソーシャルワーク実習Ⅱ-1	(近棟 健二)			
b32097220:	ソーシャルワーク実習Ⅱ-2	(鴨野 直敏)			
b32097230:	ソーシャルワーク実習Ⅱ-3	(福井 未来)			
b32097240:	ソーシャルワーク実習Ⅱ-4	(佐伯 俊源)			
単 位	6	期 別	通年集中	学 年	3年次～

到達目標

- ・実習計画に基づいた目標の達成
- ・実習体験を通じた自己覚知、課題の把握

キーワード

社会福祉士、実習記録

事前・事後学習

- 事前学習-実習計画書に基づき日々の目標を定めること
- 事後学習-日々の体験を実習記録にまとめること

授業内容

実習計画に基づいた現場実習と巡回による個別指導を行うことで相談援助に係る知識と技術に関する具体的かつ実際の理解と実践的な技術等の体得、また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力の習得を目指す。あわせて、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できるようになることを目標とする。

成績評価方法

- 配属先実習評価：40%
- 個別指導での課題等：60%

課題に対するフィードバック

巡回指導時にフィードバックを行う。

授業計画

1. 実習計画書作成/(実習前)個別指導
2. 実習施設における配属実習の実施/180時間(23日間)
(実習指導者の指導内容等)
 - ①利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーション等円滑な人間関係の形成
 - ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
 - ③利用者やその関係者との援助関係の形成
 - ④利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
 - ⑤多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
 - ⑥社会福祉士としての職業倫理等、就業等に関する規程への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
 - ⑦施設等の経営やサービスの管理運営の実際
 - ⑧実習先が地域社会の中の施設等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
3. 実習における巡回指導/(実習中)実習指導者との調整、個別指導
4. 実習に関するスーパービジョン/(実習後)個別指導

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 適宜資料配布・提示する。
- ＜参考文献＞

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32098100:	ソーシャルワークの理論と方法(専門)A (オンデマンド)	(長谷川 章子)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

ソーシャルワークに関する様々な技術について理解をした上で、ソーシャルワーク実践に必要なとされる具体的な知識を身につける。実際の事例を通してグループでの事例検討を通して、他者の意見の相違の理解や合意形成に至る「連携」の手法についても理解する。

キーワード

精神障害者、精神保健福祉法、家族支援

事前・事後学習

事前：授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。
 事後：授業で取り扱った教科書内容や授業で使用した配付資料を読み直し、ノートに整理すること。
 また、授業内で示したトピックスや関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。

授業内容

ソーシャルワークとは、社会福祉を体現する方法論である。本講義では「ソーシャルワークの理論と方法1」を受け、ソーシャルワークの様々なアプローチや面接・記録の技術、集団や地域へのソーシャルワーク、組織運営、ソーシャルアクション、スーパーバイズなど具体的なソーシャルワークの技術について講義する。またソーシャルワーカーの実務経験をもとに、実際のソーシャルワーク実践現場での事例を参照しながら、様々な技術などが理解できる授業を行う。

成績評価方法

平常点：20% グループワーク：30% 定期試験：50%
 ただし、総授業回数の3分の2以上の出席がなければ単位を認定しません。

課題に対するフィードバック

次回授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ソーシャルワークの構成要素：ソーシャルワークにおける原則、知、実践等(1)
3. ソーシャルワークの構成要素：ソーシャルワークにおける原則、知、実践等(2)
4. ソーシャルワークの展開過程：ケース発見からアフターケアまで
5. 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点：人と環境の相互作用を中心に(1)
6. 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点：人と環境の相互作用を中心に(2)
7. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開
8. 援助関係の形成技法：バイステックの7原則を中心に
9. 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法：インテーク、アセスメントおよびアウトリーチ
10. 面接技術とその応用
11. グループワーク(集団援助技術)：グループワークの歴史、概念、意義そして方法
12. 支援の展開(ケアマネジメント)：ストレングスモデルに基づくケアマネジメント
13. 精神障害者家族の課題：そのニーズと支援
14. 家族理解の変遷：家族病因論からアルコール依存症の家族研究まで
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 6 最新精神保健福祉士養成講座 / ソーシャルワークの理論と方法[精神専門] / 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編/中央法規

〈参考文献〉

その他

新聞等に日頃から目を通し、精神保健福祉に関する関心を深める。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32098200:	ソーシャルワークの理論と方法(専門)B (オンデマンド)	(長谷川 章子)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

精神障害者を取り巻く環境を統計的に把握し、精神障害者に対する効果的な実践を考える機会を得るまた、効果的な実践の実装のために、ソーシャルワーカーとして何ができるかについて考える

キーワード

事前・事後学習

事前：授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。

事後：授業で取り扱った教科書内容や授業で使用した配付資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックスや関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。

授業内容

春期に続き、ソーシャルワークとは、社会福祉を体現する方法論である。本講義では「ソーシャルワークの理論と方法1」を受け、ソーシャルワークの様々なアプローチや面接・記録の技術、集団や地域へのソーシャルワーク、組織運営、ソーシャルアクション、スーパーバイズなど具体的なソーシャルワークの技術について講義する。またソーシャルワーカーの実務経験をもとに、実際のソーシャルワーク実践現場での事例を参照しながら、様々な技術などが理解できる授業を行う。

成績評価方法

平常点：20% グループワーク：30% 定期試験：50%

ただし、総授業回数の3分の2以上の出席がなければ単位を認定しません。

課題に対するフィードバック

次回授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

1. コミュニティワーク：精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義
2. ソーシャルアクションへの展開：基本的視点
3. ソーシャルアクションへの展開：個別支援から地域における体制整備(事例検討)
4. ソーシャルアクションへの展開：地域移行・地域定着
5. チームアプローチ：連携とは
6. チームアプローチ：チームビルディング
7. チームアプローチ：チーム形態と特徴
8. チームアプローチ：連携における精神保健福祉士の役割
9. チームアプローチ：事例検討
10. ソーシャルアドミニストレーション：概念
11. ソーシャルアドミニストレーション：ソーシャルアドミニストレーションにおける展開方法
12. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：学校・教育分野
13. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：産業分野
14. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：司法分野
15. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開：災害分野

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 6 最新精神保健福祉士養成講座 / ソーシャルワークの理論と方法[精神専門] / 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編/中央法規

〈参考文献〉

その他

新聞等に日頃から目を通し、精神保健福祉に関する関心を深める。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32099100:	精神障害リハビリテーション論	(出口 聖人)			
単 位	2	期 別	秋集中	学 年	3年次～

到達目標

- 1)精神科ソーシャルワーク分野・領域におけるリハビリテーションの概念、原則、理念などをはじめ、当事者(本人や家族など)への支援のあり方について理解できる。
- 2)精神障害リハビリテーションの展開過程や精神保健福祉士が担う役割を理解できる。

キーワード

精神保健福祉士, 精神科リハビリテーション, 地域を基盤としたソーシャルワーク, リカバリー

事前・事後学習

当該科目の理解を深めるために事前・事後学習時に活用できる書籍は以下の「参考文献」欄の通りである。(※講義時に参考資料として紹介する文献を含む。)

授業内容

本講義では、精神障害リハビリテーションの基本的な考え方や概念、原則、理念などの基本的な知識の修得をはじめ、支援の実際や精神保健福祉士が行う支援や当事者へのかかわりなど、基礎から発展まで幅広い内容の理解を深める。

成績評価方法

授業への取り組み状況や姿勢(出席の状況を含む):30%/定期試験(レポート試験):70%

課題に対するフィードバック

適宜フィードバックを行う。

授業計画

1. オリエンテーション/精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク
2. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(1)
3. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(2)
4. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(3)
5. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(4)
6. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(1)
7. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(2)
8. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(3)
9. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(4)
10. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(5)
11. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(6)
12. 精神障害リハビリテーション構成および展開/プログラムの内容と実施機関(7)
13. 精神障害リハビリテーションの動向と実際(1)
14. 精神障害リハビリテーションの動向と実際(2)
15. 総括

テキストおよび参考文献等

- 《テキスト》 講師が使用する教科書は以下の文献である。購入の有無は受講生にゆだねる。
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)「最新 精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論」中央法規
- 《参考文献》・池淵恵美(2019)「こころの回復を支える精神障害リハビリテーション」医学書院
- ・R・P・リバーマン(著)/西園昌久(監修)(2011)「精神障害と回復-リバーマンのリハビリテーション・マニュアル」星和書店
 - ・野中猛(2003)「図説 精神障害リハビリテーション」中央法規

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32100100:	精神保健福祉援助技術演習1	(鴨野 直敏)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	3年次～

到達目標

精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聴き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識・価値・技術)の基礎を獲得する。

キーワード

ソーシャルワーカー、PDCAサイクル、コンピテンシー、職業アイデンティティ、キャリアラダー

事前・事後学習

予め指定された事例(教科書)に目を通し、クライアントに対して予想される支援内容について考えてくる。

授業内容

・事例を基に学生間で検討を行ない、クライアントに対してどのような介入・支援が望まれるのかを課題の中から焦点化する。

成績評価方法

平常点・出席点(20%)
レポート(80%)

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|---|--|
| 1. 精神保健福祉士になるための演習の意義と目的 | 9. 事例3 - DPATの受け入れによる被災地の精神科病院の受援活動 |
| 2. 精神保健福祉士の演習の内容 | 10. 事例4 - 就労移行支援事業所におけるピアサポーターの養成と活動支援 |
| 3. 精神保健福祉士の実践における原理・原則 | 11. 事例5 - 訪問型の生活訓練事業を活用した引きこもりの若者支援 |
| 4. 個人に対する相談援助の理解 | 12. 事例6 - 児童虐待が疑われる要援護児童とその家族への支援 |
| 5. グループにおける相談援助の理解 | 13. 事例7 - 更生保護施設におけるホームリダクションに基づくリカバリー支援 |
| 6. コミュニティソーシャルワークの理解 | 14. CSWEのコンピテンシー |
| 7. 事例1 - 家族からの精神科受診相談とインテーク面接 | 15. 「精神保健福祉士のキャリアラダー」に基づく実践力の獲得 |
| 8. 事例2 - 精神科クリニックにおけるアルコール依存症者の回復に向けた支援 | |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編『ソーシャルワーク演習』〔精神専門〕中央法規 2021

《参考文献》

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32101100:	医療福祉論	(新地 敦彰)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	3年次～

到達目標

医療ソーシャルワークの倫理・価値・知識・技術の基礎を理解することができる。
 保健医療福祉に関する経済、経営の基礎的知識を理解することができる。
 地域共生社会における保健医療福祉の機関、専門職、ネットワークの果たす役割を理解する。

キーワード

保健、医療、福祉、医療ソーシャルワーク、医療、患者の権利、医療倫理、福祉倫理、在宅医療、多職種連携、医療経済、重層的支援、地域共生社会、ターミナルケア、難病、医療的ケア児

事前・事後学習

医療福祉の理論や制度を事例を通し、フォーマル、インフォーマルサポートなど様々な社会資源の活用方法や支援を学びます。

授業内容

本講では、福祉専門職が持つべき保健医療福祉領域の知識、理論を基礎から学びます。
 現在、医療は病院から在宅医療・地域医療にシフトし、その中で福祉専門職は前述の知識と共に診療報酬など医療の仕組みの理解も求められています。医療機関が機能ごと専門分化していく過程において、児童、障害、高齢など様々な領域との連携も増している。福祉専門職としてどのように関わることかを学んでいきます。

成績評価方法

平常点：30%
 授業内レポート：20%
 定期試験：50%

課題に対するフィードバック

保健、医療、福祉の問題点を認識し、今後に活かせるような振り返りを行う。

授業計画

1. 医療福祉論とは
2. 医療ソーシャルワーカーの業務と役割
3. 保健医療福祉の制度概要
4. 医療費、医療経済の仕組み、医療保険の仕組み
5. 保健医療福祉における倫理
6. 医療福祉における介護保険制度の概要
7. 医療福祉における障害者制度の概要
8. 医療福祉における難病制度の概要
9. 医療福祉におけるその他関係法
10. 医療福祉における保健・医療・福祉関係法規
11. 医療福祉における専門職の役割の実際
12. 医療福祉における他職種連携の実際
13. 地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識
14. これからの保健・医療・福祉サービスの動向
15. まとめ

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 医学書院 医療福祉総合ガイドブック2024年度版
 〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32102100:	精神保健福祉援助技術演習2A	(鴨野 直敏)			
単 位	2	期 別	春学期	学 年	4年次

到達目標

なぜ、クライアントが「その」行動を取るのか、なぜ、クライアントが「その」言葉を発したのか、様々な想像をすることでクライアントの「今」の気持ちを理解することができる。

キーワード

クライアント、PSW、ソーシャルワークプロセス

事前・事後学習

授業の理解を深めるため、毎回、事前に提出された指定事例に一時間くらいかけて取り組むこと。

授業内容

事例に基づいて演習を行う。

注意深く文章を読み解くことで、クライアントの「今」を把握する。

討論形式。

成績評価方法

出席点:40%

レポート点:60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行なう。

授業計画

1. 症状の悪化により医療保護入院となった認知症の男性①
2. 症状の悪化により医療保護入院となった認知症の男性②
3. 突如現れた就職希望の男性①
4. 突如現れた就職希望の男性②
5. 執拗に即時の入所を迫る母親①
6. 執拗に即時の入所を迫る母親②
7. ストレスチェック後に受診を勧められた男性①
8. ストレスチェック後に受診を勧められた男性②
9. 作業の休憩時間を思い思いに過ごすメンバー①
10. 作業の休憩時間を思い思いに過ごすメンバー②
11. 転職と再飲酒を繰り返す軽度知的障害の女性①
12. 転職と再飲酒を繰り返す軽度知的障害の女性②
13. 生活支援を長年拒み続けてきた一人暮らしの男性①
14. 生活支援を長年拒み続けてきた一人暮らしの男性②
15. 激高した無職の男性と泣き出した休職中の女性①

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 田村綾子『ソーシャルワークプロセスにおける思考過程』中央法規2017

＜参考文献＞

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b32102200:	精神保健福祉援助技術演習2B	(鴨野 直敏)			
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	4年次

到達目標

なぜ、クライアントが「その」行動を取るのか、なぜ、クライアントが「その」言葉を発したのか、様々な想像をすることでクライアントの「今」の気持ちを理解することができる。

キーワード

クライアント、PSW、ソーシャルワークプロセス

事前・事後学習

授業の理解を深めるため、毎回、事前に提示された指定事例に一時間くらいかけて取り組むこと。

授業内容

事例に基づいて演習を行なう。

注意深く文章を読み込むことで、クライアントの「今」を把握する。

成績評価方法

出席点:40%

レポート点:60%

課題に対するフィードバック

最終授業時に全体向けにフィードバックを行なう

授業計画

1. 激高した無職の男性と泣き出した休職中の女性②
2. 一人暮らしを希望する双極性障害の長期入院の女性①
3. 一人暮らしを希望する双極性障害の長期入院の女性②
4. “死にたい”と任意入院を繰り返す男性①
5. “死にたい”と任意入院を繰り返す男性②
6. 映画スターになりたいと口癖のように言う長期入院者①
7. 映画スターになりたいと口癖のように言う長期入院者②
8. 子の暴力に怯え、入院させてほしいと一点張りの母親①
9. 子の暴力に怯え、入院させてほしいと一点張りの母親②
10. 電話をかけてきて突然“死にたい”と訴える女性①
11. 電話をかけてきて突然“死にたい”と訴える女性②
12. 怒り交じりの用件をいきなり訴える母親①
13. 怒り交じりの用件をいきなり訴える母親②
14. 毎日のように電話をかけてくる契約外の女性①
15. 毎日のように電話をかけてくる契約外の女性②

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 田村綾子『ソーシャルワークプロセスにおける思考過程』中央法規2017

〈参考文献〉

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b33001000:	社会福祉学入門演習	(福井 未来)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	1年次～

到達目標

- ・レポート作成の基礎を学び、実践できる
- ・福祉に関する基礎的な知識が習得できる
- ・グループでの企画、実行、発表ができる

キーワード

グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション

事前・事後学習

- ・事前学習：授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
- ・事後学習：授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

- ・前期は、大学生生活をスムーズにスタートするために、大学生活の概要や大学施設、授業、シラバスについて学ぶ。加えてコミュニケーション演習、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などの活用を通して仲間意識の醸成を図る。また、レポート作成の初歩を学び、実践する
- ・後期は、文書要約や文書表現を学び、より発展的なレポート作成を行う。また、福祉の視点で街を見る街探索についての企画、実行、事後発表をグループでディスカッションしながら行う。通期を通して福祉に関するトピックを提供し、意見交換を行うことで福祉に関する基礎的な知識の習得を目指す。授業の理解を深めるため毎回、一時間程度掛けて指定された課題に授業外で取り組むこと

成績評価方法

- ・平常点(出席、受講態度等):50% ・課題の提出状況および内容:50%

課題に対するフィードバック

提出課題についてコメントを記し、個別に返却する。必要に応じて評価について話し合いを行う

授業計画

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. オリエンテーション | 16. オリエンテーション |
| 2. シラバスを見よう | 17. 夏休みレポート報告 |
| 3. 受講の心得、ノートの取り方 | 18. 効果的なプレゼンテーション |
| 4. レポート作成手順 | 19. 街探索(福祉の視点で街を見る)準備(1) |
| 5. 資料検索、IT活用、図書館活用 | 20. 街探索(福祉の視点で街を見る)準備(2) |
| 6. 個人面談(1) | 21. 街探索レポート作成 |
| 7. 個人面談(2) | 22. 街探索レポート発表(1) |
| 8. コミュニケーション演習(1) | 23. 街探索レポート発表(2) |
| 9. コミュニケーション演習(2) | 24. インタビュー準備(1) |
| 10. コミュニケーション演習(3) | 25. インタビュー準備(2) |
| 11. ブックレポートI作成 | 26. インタビューレポート作成 |
| 12. ブックレポートI発表(1) | 27. インタビュー発表 |
| 13. ブックレポートI発表(2) | 28. ブックレポートII作成 |
| 14. 夏休み予定レポート作成 | 29. ブックレポートII発表 |
| 15. まとめ | 30. まとめ |

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 随時、プリントを配布する。
- ＜参考文献＞ 適宜、紹介する。

その他

障がい者支援施設の相談支援専門員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b33002000:	社会福祉学基礎演習～社会福祉を学ぶための準備と研究の仕方を学ぶ	(鴨野 直敏)			
単位	4	期別	通年	学年	2年次～

到達目標

テキストを学ぶ上で必要な文章の要約ができる。
 社会福祉に関する資料・文献・論文を自分で探すことができる。
 論理的な文章の書き方を理解し、レポートを書くことができる。

キーワード

文章作成、資料・文献の検索、レポート作成

事前・事後学習

配布された資料、返却された小レポートを基に復習する。

授業内容

・社会福祉学における自らの課題を見つけ、資料やデータなどを調べ、まとめ、レポートを作成するといったことを学習する。・この基礎演習ではこうした一連の学習について学生自らが主体的、体験的に取り組むことが中心となる。・論理的に書くこと・表現することに対する自信をつける。

成績評価方法

平常点：40%、特に出席は重視する。レポート：60%

課題に対するフィードバック

個別レポートについてはコメントを記し返却する。必要に応じて評価について話し合う場を設ける。

授業計画

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 春学期オリエンテーション | 16. 秋学期オリエンテーション |
| 2. 文の要約の仕方(1) (入門編①) | 17. 文献の探し方 |
| 3. 文の要約の仕方(2) (入門編②) | 18. テーマ(課題)の探求①～調査の仕方 |
| 4. 文の要約の仕方(3) (中級編①) | 19. テーマ(課題)の探求②～再チャレンジ |
| 5. 文の要約の仕方(4) (中級編②) | 20. レポート(課題)の書き方① |
| 6. 文の要約の仕方(5) (中級編③) | 21. レポート(課題)の書き方② |
| 7. 文の要約の仕方(6) (応用編) | 22. レポート(課題)の書き方③～引用の仕方 |
| 8. 図表の読み方① | 23. 長いレポートを書く① |
| 9. 図表の読み方② | 24. 長いレポートを書く② |
| 10. 図表の読み方③ | 25. 長いレポートを書く③ |
| 11. 図表の読み方④ | 26. 長いレポートを書く④ |
| 12. レジューメの作成の仕方① | 27. 長いレポートを書く⑤～図表を読む |
| 13. レジューメの作成の仕方② | 28. 長いレポートを書く⑥ |
| 14. レポート作成の仕方① | 29. 言葉の定義をし、文にする |
| 15. レポート作成の仕方② | 30. 1年間のまとめと評価 |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 大久保秀子『新・社会福祉とは何か』第4版 中央法規2022
 ＜参考文献＞ 必要に応じて紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b33003000:	社会福祉学専門演習	(近棟 健二)			
単位	4	期別	通年	学年	3年次～

到達目標

卒論に向けての研究テーマが設定できる
 研究方法が習得できる
 研究レポートが作成できる

キーワード

研究テーマ探索、先行研究、グループディスカッション

事前・事後学習

事前学習－授業で扱うテーマに関する語句を調べてノートにまとめること
 事後学習－授業で学んだことをノートにまとめること

授業内容

本演習は、4年次の社会福祉学卒論演習の前段階に位置づけられる。これまでの学びの中で習得した知識をもとに、自らの問題意識を深め、卒業論文執筆につながる研究テーマを設定する。演習内では、討議・プレゼンテーションや研究方法を習得するとともに、個人の研究テーマに沿った先行研究(文献、論文など)の探索と、その読解、批評を中心とする発表、討議を行い、卒業論文につながる研究レポートを作成することを目標とする。

成績評価方法

平常点(参加態度、発表内容等)50%
 レポート課題50%

課題に対するフィードバック

課題提出後、都度コメントを行う

授業計画

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. オリエンテーション | 16. オリエンテーション |
| 2. 研究方法の指導(1) | 17. 研究方法の指導(1) |
| 3. 研究方法の指導(2) | 18. 研究方法の指導(2) |
| 4. 先行研究(文献・論文など)の探索 | 19. 先行研究の探索 |
| 5. 研究テーマ探索(1) | 20. 研究レポート作成方法(1) |
| 6. 研究テーマ探索(2) | 21. 研究レポート作成方法(2) |
| 7. 個人研究発表(1) | 22. 個人研究発表(1) |
| 8. 個人研究発表(2) | 23. 個人研究発表(2) |
| 9. 個人研究発表(3) | 24. 個人研究発表(3) |
| 10. 個人研究発表(4) | 25. 個人研究発表(4) |
| 11. 個人研究発表(5) | 26. 個人研究発表(5) |
| 12. 個人研究発表(6) | 27. 個人研究発表(6) |
| 13. 個人研究発表(7) | 28. 個人研究発表(7) |
| 14. 個人研究発表(8) | 29. 個人研究発表(8) |
| 15. まとめ | 30. まとめ |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉なし
 〈参考文献〉 適宜紹介する。

その他

社会福祉協議会にて職員として勤務。社会福祉士。

コード	履修科目名	(担当教員)			
b33004010:	社会福祉学卒論演習-1	(佐伯 俊源)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	4年次

到達目標

卒業論文を作成できる

キーワード

卒業論文

事前・事後学習

事前学習: 毎回、発表レジュメの作成、論文草稿の作成などを行ってくる

事後学習: 次回に向けて以上の作業を繰り返し行い、卒論作成の作業を進める

授業内容

卒業年次の学生は、必修単位として必ず卒業論文を提出しなければならない。本演習では、各学生の大学での学びの集大成である卒業論文の作成をサポートする場だけでなく、学生相互の関わりの中からさまざまな気づきが得られ、またプレゼンテーションなどの能力を培う場となることをめざしたい。最終目標である卒論提出に向けて、春学期は主にテーマの設定、内容の構成、先行研究や参考文献の探索と理解、データ収集等の各段階において随時にまとめ、発表、討論を行う。秋学期は主に個別面談を通じて各自の卒業論文を完成をサポートし、提出後はその成果概要の発表も行いたい。

成績評価方法

平常点(出席・授業参加態度、発表内容): 50%

最終課題(卒業論文): 50%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 春学期オリエンテーション | 16. 秋学期オリエンテーション |
| 2. 卒業論文の意義と進め方(1) | 17. 論文全体構成の完成(1) |
| 3. 卒業論文の意義と進め方(2) | 18. 論文全体構成の完成(2) |
| 4. 卒業論文のテーマの設定(1) | 19. 論文全体構成の完成(3) |
| 5. 卒業論文のテーマの設定(2) | 20. 論文全体構成の完成(4) |
| 6. 論文執筆の方法(1) | 21. 論文全体構成の完成(5) |
| 7. 論文執筆の方法(2) | 22. 論文全体構成の完成(6) |
| 8. 論文執筆の方法(3) | 23. 論文作成に向けて(1) |
| 9. 論文執筆の方法(4) | 24. 論文作成に向けて(2) |
| 10. 論文全体構成の試み(1) | 25. 論文作成に向けて(3) |
| 11. 論文全体構成の試み(2) | 26. 論文作成に向けて(4) |
| 12. 論文全体構成の試み(3) | 27. 論文完成に向けて(5) |
| 13. 論文全体構成の試み(4) | 28. 論文要旨作成と口頭試問に向けて(1) |
| 14. 論文全体構成の試み(5) | 29. 論文要旨作成と口頭試問に向けて(2) |
| 15. 論文全体構成の試み(6) | 30. 論文要旨作成と口頭試問に向けて(3) |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉なし。資料配付。

〈参考文献〉状況に応じて適宜紹介する。

その他

コード	履修科目名	(担当教員)			
b33004020:	社会福祉学卒論演習-2	(近棟 健二)			
単 位	4	期 別	通年	学 年	4年次

到達目標

卒業論文の作成

キーワード

事前・事後学習

授業内容

卒業年次の学生は、必修単位として必ず卒業論文を提出しなければならない。本科目では、各学生の大学での学びの集大成を作成する場であるだけでなく、学生相互の関わりの中からさまざまな気づきを得られる場である。

最終目標である卒業論文作成に向けて、テーマの設定、内容の構成、先行研究や参考文献の探索と理解、データ収集等の各段階において随時、まとめ、発表、討論を行う。

成績評価方法

平常点(課題・授業参加態度、発表内容):50%

最終課題(卒業論文):50%

課題に対するフィードバック

授業計画

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 春学期オリエンテーション | 16. 秋学期オリエンテーション |
| 2. 卒業論文の意義と進め方(1) | 17. 論文全体構成の完成(1) |
| 3. 卒業論文の意義と進め方(2) | 18. 論文全体構成の完成(2) |
| 4. 卒業論文のテーマの設定(1) | 19. 論文全体構成の完成(3) |
| 5. 卒業論文のテーマの設定(2) | 20. 論文全体構成の完成(4) |
| 6. 論文執筆の方法(1) | 21. 論文作成に向けて(1) |
| 7. 論文執筆の方法(2) | 22. 論文作成に向けて(2) |
| 8. 論文執筆の方法(3) | 23. 論文作成に向けて(3) |
| 9. 論文執筆の方法(4) | 24. 論文作成に向けて(4) |
| 10. 論文全体構成の試み(1) | 25. 論文完成を目指して細部の検討(1) |
| 11. 論文全体構成の試み(2) | 26. 論文完成を目指しての細部の検討(2) |
| 12. 論文全体構成の試み(3) | 27. 論文完成を目指して細部の検討(3) |
| 13. 論文全体構成の試み(4) | 28. 論文完成を目指して細部の検討(4) |
| 14. 論文全体構成の試み(5) | 29. 論文趣旨発表の報告と方法(1) |
| 15. 論文全体構成の試み(6) | 30. 論文趣旨発表の報告と方法(2) |

テキストおよび参考文献等

《テキスト》なし。資料配付。

《参考文献》適宜紹介。

その他